# 第3回
# みどりの交流広場

平成 27 年 3 月

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

第３回

# みどりの交流広場
# 報 告 書

≪開催≫
日時　平成 27 年 2 月 15 日　12:00～
場所　第１部 花博記念ホール
（鶴見緑地公園内）
第２部 旧生き生き地球館
別館　研修室
（鶴見緑地公園内）

## 目　次


◇関係者挨拶 …… 2

◇会場風景写真 …… 4

◇事例発表 …… 5

ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ …… 7
高槻景観園芸クラブ …… 11
中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」 …… 15
みどり大阪・屋敷林を守る会 …… 19
まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会 …… 23
ＮＰＯ法人 環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク …… 27
大阪大学環境サークルＧＥＣＳ …… 31
六甲アイランドＣＩＴＹ自治会ＲＩＣローズガーデンファミリー …… 35
ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ …… 39
里山の山野草を守る会 …… 43

◇講　評 …… 47

◇パネル展示 …… 49

ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ / 高槻景観園芸クラブ …… 51
中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」 / みどり大阪・屋敷林を守る会 …… 52
まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会 / ＮＰＯ法人 環境デザイン･エキスパーツ･ネットワーク ・ 53
大阪大学環境サークルＧＥＣＳ / 六甲アイランドＣＩＴＹ自治会ＲＩＣローズガーデンファミリー ・・・ 54
ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ / 里山の山野草を守る会 …… 55
ＮＰＯ法人 自然と緑 / ＮＰＯ法人 木育フォーラム …… 56
ＮＰＯ法人 神於山保全くらぶ / ＮＰＯ法人 島本森のクラブ …… 57
街区公園お調べプロジェクト / 大阪ガス株式会社 リビング事業部 計画部 …… 58
ＮＰＯ法人 ノート / 新関西国際空港株式会社 …… 59
ボランティア団体 癒しの園芸の会 / ＮＰＯ法人 とどろみの森クラブ …… 60

◇開催概要

## 主催者あいさつ

宮前 保子
（公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 専務理事）

1990 年にここ鶴見緑地で「国際花と緑の博覧会」が開催され、今年でちょうど 25 周年を迎えます。

国際花と緑の博覧会記念協会は、花の万博の基本理念である「自然と人間との共生」を発展・継承するためのさまざまな事業を行っています。

「みどりの交流広場」は、その一環として一昨年から開催しているもので、本日は 3 回目となります。

自然は私たちにたくさんの恵みを与えてくれます。

そして、今日お集まりの皆さまは、屋敷林の保全や里山保全、花のまちづくり、ビオトープづくりなど、まち、里、そして山で、さまざまな活動を展開されています。

お互いの発表や展示をご覧いただいて交流がますます深まるとともに、そのネットワークが広がっていけば、とてもうれしく感じます。本日は、このフォーラムを通して楽しい時間を過ごしていただければと思います。

## コーディネーターあいさつ

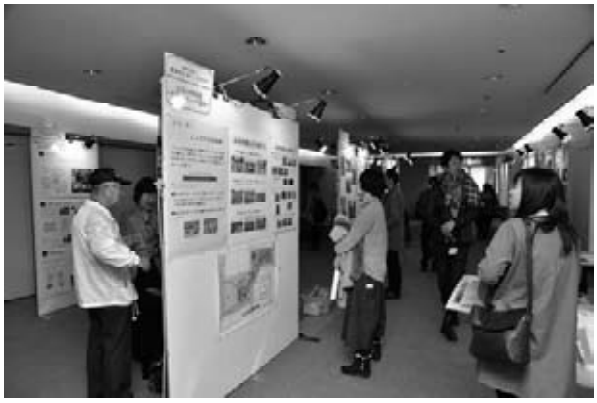
加我 宏之
（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）

今日は、10 団体の方々に発表していただきます。私がコーディネーティングするというよりも、皆さんから熱いご報告を頂けると、きっと素敵な交流広場になろうかと思います。

今日の目的は交流です。皆さんは日頃、それぞれ里山やまちかどなど「場」との交流をされていますし、地域の方々との交流も育んでいただいているかと思います。そういった各活動場所での交流を報告していただき、また、大阪近郊で活動されている方との新たな交流が生まれれば、皆さんの活動もまた一歩前進していくと思います。皆さんのこれからの活動の発展に資するような新たな交流が生まれることを願っています。皆さんからも積極的な質問を頂きながら進めたいと思いますので、どうかご協力をよろしくお願いします。

## 会場風景写真

発表会



パネル展示

交流会

# 事 例 発 表

## 第３回みどりの交流広場

ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ
高槻景観園芸クラブ
中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」
みどり大阪・屋敷林を守る会
まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会
ＮＰＯ法人 環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク
大阪大学環境サークルＧＥＣＳ
六甲アイランドＣＩＴＹ自治会ＲＩＣローズガーデンファミリー
ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ
里山の山野草を守る会

事例発表①

# 「北加賀屋みんなのうえんの活動」

ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ
金田 康孝

NPO 法人 Co.to.hana は、「コトハナ」と読みます。僕たちは、実はデザイン事務所なのです。しかも、ただのデザインではなくて、課題解決に取り組んでいるデザイン事務所です。具体的には、グラフィックのデザインや空間デザイン、ウェブデザイン、イベントの企画運営などもします。地域でまちづくりをしたり、最近ではケータリングといってイベントなどで食事を提供したりもする、何でも屋さんです。

皆さん「課題先進国」という言葉を聞いたことがあると思いますが、実は日本にはとてもたくさん課題があるのです。災害大国ですし、少子高齢化も先進国の中ではかなり進んでいます。教育、福祉、医療と挙げればきりがないのですが、僕たちはこういう課題をデザインの力で解決したいと思い、活動しています。

デザインは、美しかったり、わくわくしたり、楽しくなったりと、見ればすぐ分かるもので、そのデザインには、人に感動を与える力、社会を動かしていく力、人を幸せにする力の三つがあるのではないかと思っています。いろいろな課題があり、いろいろな専門家や NPO、企業、学校、行政、地域の皆さんが課題に対して真摯に取り組んでいるのですが、僕たちは緑の専門家でも農の専門家でもありません。課題に取り組んでいる専門家と一緒になって本質的な問題とは何かを考え、周囲の「ヒト」「モノ」「コト」の関係性を正していく、コミュニケーションをデザインする活動をしています。

## 1. 北加賀屋の空き地対策

北加賀屋は、大阪市の一番南の住之江区にあります。僕たちは、入口が少し違って、まちに空き地が増えていることに着目しました。空き地は、どの地域でも問題になっています。空き地が増えると、まず景観が悪くなります。雑草が増え、ごみも捨てられますし、フェンスなどで景観が悪くなります。さらに言うと、空き地が多い地域は犯罪率も高い傾向があります。空き地だけでなく空き家も関係しているのですが、犯罪の温床になってしまいます。住環境が悪化して、ごみや悪臭の問題が増え、魅力が減退して土地の価値も下がってしまいます。そして、最終的に駐車場だらけのまちになっていきます。なぜ駐車場だらけになるのかというと、とてももうかるからです。僕らの住んでいる北加賀屋も例外ではなく、とても駐車場が多いです。そういうまちは嫌だと感覚的に思っているので、何とかしたいと思っています。

北加賀屋には木津川が流れていて、かつて造船業で栄えていました。船を造る大きな会社があって、労働者がいろいろなところから移り住んで働いていました。しかし、船の大型化に伴って造船業が衰退してしまい、今何が起こっているかというと、コミュニティーの希薄化です。住民が交流する機会もなかなかないですし、特に年配の方と若い世代の交流の場がありません。人口が減るので空き地、遊休地も増えます。少子高齢化もこの地域ではとても進んでいます。

その中で、6 年ほど前から地元の不動産会社が立ち上げた「北加賀屋クリエイティブビレッジ構想」が進められています。これは地元の遊休不動産に若いアーティストや建築家、デザイナーを誘

致して活動してもらい、アートによって地域を活性化していこうというものです。現在、15 の拠点でいろいろな方が活動されています。遊休不動産の中でも古い物件はなかなか使い手がいないので、そういうところに若い人に安く入ってもらい、北加賀屋を新しい文化の発信拠点として活性化していこうという取り組みをしています。

## 2.「みんなのうえん」を始めたきっかけ

最近、課題になっているのは、地域の人にとってはなじみが薄いこと、アーティスト同士のつながりが薄いことです。地域の方に話を聞くと、「アートはよく分からん」「若い人が集まってなんか怖いわ」という声が多くて、地域活性化になっているのか疑問なところがあります。

そこで、地域をつなぐ別のテーマが必要だということで僕たちが提案したのが、空き地を活用して地域内外の多世代が集うコミュニティー農園を作ろうということでした。まちを見回すと、軒先や道端に植物を置いている方がとても多くて、皆さんこんなに緑を求めているのだと感じます。また、まちなかで農園を開くと、心と体の健康にもいいし、若い人にとっても、仕事をするだけではない新しいライフスタイルをつくることもできます。しかも、自分の手で安心・安全な食が得られ、子供たちの自然との関わりも生むことができるのではないかと考えたのです。そして何より、子供や主婦、お年寄りの方、ものづくりをしているデザイナーやアーティストが、農園を通してつながれるのではないかと考えました。

## 3.「みんなのうえん」の特徴

「みんなのうえん」では、空き地を使っていろいろな人が野菜を作りながら交流しているのですが、一般的な貸し農園とは異なる点として三つの特徴があります。

一つ目は、みんなでつくる農園だということです。野菜作りはもちろん、レンガの道を通したり、石窯を造ったり、農園全体をみんなで作っています。二つ目に、北加賀屋にはいろいろなクリエイターがいるので、その人たちとつながりながら面白い活動をしていこうということ。三つ目は、野菜作りだけではなく、みんなで集まってイベントを開催することです。

地域内外からいろいろな方が集まって、皆さん初対面なのですが、テーブルを囲んで何を育てようとか、植える形はどうしようとかと話し合いながら、みんなで農作業をしています。土づくりなどの重労働は 1 人でやると心が折れるのですが、みんなでわいわい言いながらやると楽しいものです。農具倉庫もみんなで造りました。コンクリート打ちを子供たちがやったり、レンガの道もみんなで敷きました。

専門家の方を招いて料理教室を開催したり、メンバーと一緒にイベントに出展して食べ物を提供したり、交流イベントで打ち上げみたいなことをしたり、焼き芋をしたり、大阪近郊の農家にみんなで見学に行って教えてもらったり、本当にいろいろな活動をしています。「みんなのうえん」では、こうして地域のコミュニティーをつくっているのです。

● 発表資料

Co.to.hana

私たちは、課題解決に取り組む
デザイン事務所です

取り組み

課題先進国
日本

災害、少子高齢化、教育
福祉、医療、就労
食、環境、地域コミュニティ
をデザインの力で解決したい

[デザインの力]
人を感動を与える力
社会を動かす力
人を幸せにする力

専門家
NPO、企業、学校
行政、住民
課題

専門家
NPO、企業、学校
行政、住民
本質的な問題
課題
コミュニケーションをデザインする
様々な専門家と協働し、課題の本質を探り、
「ヒト」「モノ」「コト」の関係性をデザインする

北加賀屋
みんなのうえん

まちに空き地が増えています

空き地が増えると

- 景観の悪化
- 犯罪率の増加
- 魅力の減退
- 住環境の悪化

そして行き着くのは
駐車場だらけのまち

北加賀屋というまちについて

かつて造船業で栄えたまち

まちの課題

産業の衰退

- コミュニティの希薄化
- 遊休地の増加
- 少子高齢化

アートによる地域活性化
北加賀屋クリエイティブビレッジ構想

地元不動産会社が2009年に始動
アーティスト、建築家、デザイナーなど
15拠点が展開中

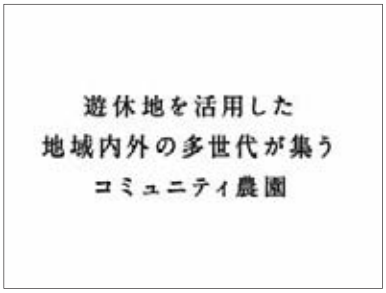
[目的と特徴]

遊休不動産の活用
リノベーション自由、現状復帰の必要なし

若い世代の誘致
一般に賃貸するのは難しい物件を格安で

北加賀屋の大阪の文化の中心に
入居者同士のネットワーク化、イベントの開催

【課題】
地域住民にとっては馴染みにくい
入居者同士の繋がりも薄い
アートは よくわからん
まちの人間が 無視している
どう接したら いいかわからない
若い人たちが 集まって怖い
他の作家と 接点がない
「アート」ではない別のテーマが必要


遊休地を活用した
地域内外の多世代が集う
コミュニティ農園

まちを占拠する緑たち
地域の人は緑をこんなにも求めている!

都市における「農」の可能性
心身の健康
ライフスタイル
安心安全な食
自然との関わり

お年寄り
こども
主婦
デザイナー
農
若者
アーティスト
学生
農で地域をつなぐ

みんなのうえん 3つの特徴
みんなでつくる農園
専門家やクリエイターとの連携
学びや出会いを楽しむイベント

みんなのうえんの活動

みんなでつくる農園

事例発表②

# 「今出来ることから始めよう!!」

高槻景観園芸クラブ
小林 美代子

高槻景観園芸クラブでは、市民が豊かで健康に心和んで暮らせるよう、市内の放置された空間を手入れしています。そして、市民自らの手でつくるまちということで、花の見どころスポットの再生に頑張っています。

2004 年、私が初めて高槻警察署にお邪魔したとき、殺風景なところだなと感じました。ちょうどそのころ、植物園巡りをするようになったことがきっかけで、自宅にたくさん花を植えはじめていたので、署長さんに「家の花を警察にあげましょうか」と申し出て、仲間と共に開墾し、植栽するようになりました。同時に兵庫県立淡路景観園芸学校「まちづくりガーデナー」コースを受講しながらのボランティアでした。署長さんからは、「多くの来庁者と署員の心を和ませていただきありがとう」と 2 度にわたって感謝状を頂きました。

## 1. JR 駅前における取り組み

3 年後には、JR 高槻駅南口のガーデンの取り組みをはじめました。以前、私がライオンズクラブに所属していたときに、活動した場所ですが、退会して 1 年半後に見に行くと、大変な荒地と化しており、市議会で問題になっているとのこと。ライオンズクラブが活動出来ず、市に返却したあと放置されていたとのことです。市の緑地で大切な場所なので、市に申請して活動を始めました。

その後、高槻市では思いがけない計画が持ち上がっているとのことを耳にして、さっそく市にでかけ確認。緑地帯はコンクリート化して、市バスの待機場所としての計画図面を見せられてびっくり！！　絶対この緑地帯は守らなければならないと、力を合わせて、木の剪定、花苗の植え込み、草抜きなど頑張りぬきました。一般の方は入れない場所ですが、メンバーは、自分たちが歩きたくなる“花の小道”を作りたいとそれぞれ取り組みました。2011 年には、全国花のまちづくりコンクールで“優秀賞”を頂き、賞金 3 万円で中央にバラのガーデンを作りました。

JR 高槻駅前には人工デッキがあり、地上はロータリーで、2 階を人が歩く形になっています。人が歩かない 1 階のロータリーにきれいな花をいくら植えても、歩く人の目線は届きません。そのため説得力がなく、花への関心も薄かったというのが実際です。また、当時は街灯もなく真っ暗闇でした。そこで、一口 1000 円の協賛金を募集してイルミネーションをともしはじめ、毎年 50 万円集めながら今日に至っています。

一昨年は世界遺産登録を記念して富士山を題材に取り上げ、昨年 12 月には富士山をもう一度華やかに大きく作り直しました。東京オリンピック招致決定に関するものも題材に取り上げました。そして、先日は高槻市が 70 周年記念式典を挙行したということで、舞台を作って市長、議長にカウントダウンしていただき、7 回目の点灯式を華やかに行いました。

市長・議長は、ごあいさつの中で、「JR 駅前のイルミネーションはすっかり冬の風物詩となりました。多くの市民が楽しみにしています。クラブの皆さんは、市街地各地にたくさん花を植えて手入れをしてもらっています」とはげましの言葉を頂きました。点灯式は地元の歌手の美しい歌声を聞きながら、終わりました。花よりイルミネーションの効果は高く、市の評価も上がり、駅前緑地

帯の存続が決まりました。

## 2. 周知のためのさまざまな取り組み

花と緑のまちづくりの意義について多くの市民に知ってもらうため、2009 年からは、毎年、養成講座を開催しています。これが仲間づくりに一番効果があるのではないかと思っています。初回は、淡路景観園芸学校の平田教授に来ていただいて、講座 3 回で 1 人 3000 円の会費を頂きました。このときのメンバーが、今も 6 人ほど残っています。

2 回目の企画のときに助成金の公募があり、25 万円の助成金を交付していただきました。園芸学校と高槻市との共催という形で、学校との契約で 3 人の先生が出向いてくださり、高槻城跡公園のアプローチにある松並木のガーデン一帯を実習講座の場として使わせていただきました。ちょうどこの年、城跡公園が「大阪府都市緑化フェア in たかつき」の会場に選ばれて、ぜひともアプローチ周辺の緑化を頑張ってほしいということで高槻市が機会を与えてくださいました。フェア前の城跡公園内には驚くほど緑が乏しかった広場もあり、30 名ほどのメンバーが班ごとにテーマを設けて花を植えていきました。

高槻で森林の作業をしている方たちのグループから丸太を買い、公園内に花壇を造りました。その後、花を植える作業には槻ノ木高校の生徒に参加していただき、頑張ってもらっています。野球場東側の花の小道には、生徒らが植えてくれた皇帝ダリアが見事に咲いて大変好評を博しています。

今後に向けて、活動を点から線に、それから面へと広げていきたいと思います。また、大阪府立の植物園が北摂地域に一つもないので、ぜひとも植物園がほしいです。どこを歩いても花と緑がある豊かなまちになるように、これからも頑張ってまいります。

**（加我）** どこを歩いても花と緑があるまちにしたいということですが、新たな連携先であるとか、次はここで活動したいという場所がありましたら教えてください。

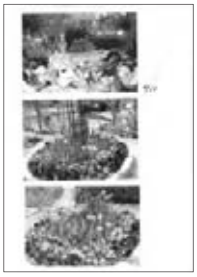
**（Ａ）** 今度してみたいのは、JR の駅から安満遺跡までを結ぶ道です。「安満遺跡通り」と名付けて整備してみたいという希望があります。今すぐはできませんが、どんどん世論を高めていって、駅を降りてからずっと神戸や淡路島のような景色が広がるようにしたいです。「高槻はどんなまち？」と聞かれたら、「どこにでも花と緑がいっぱいあるね」と答えられるまちにするのが夢です。世論をたかめるためとガーデニングの技術アップのため、年１、２回の植物園バス研修ツアーは実施したいと思っています。

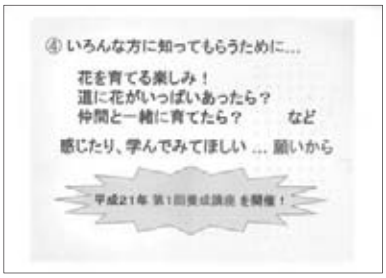
**（加我）** まちの印象というのは、最初に駅に降り立ったところで決まると思います。どこを歩いても花と緑があるまちづくりを楽しみにしています。

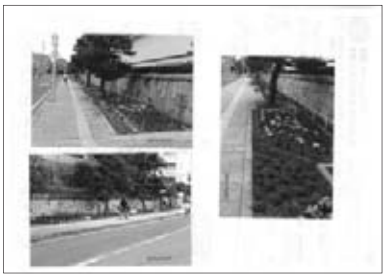
## ● 発表資料

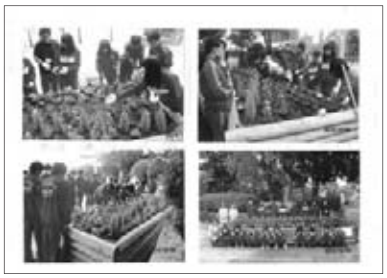
○ 高槻景観園芸クラブとは？

市民が豊かで健康に心和んで暮らせるよう、市内の放置された空間を手入れ植栽して、「花の見どころスポット」に再生する活動をめざしています。また、その活動を通して、自ら健康と生きがいづくり、社会貢献をともにする仲間づくりを行っています。









⑦ 今後に向けて

1. 点 → 線 → 面 → 広がり
2. 大阪府立植物園がほしい！
   → 北摂地域には1つもない…
3. JR高槻駅＆阪急高槻市駅 ～ 市民会館 ～ 歴史・文化の道 ～ 安満遺跡への道 ～ どこへ歩いても花がいっぱい！歩きたくなる道！

事例発表③

# 「花でつながる地域の輪」

中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」
澤本 美奈子

堺市中区は、昔からの姿が残る場所もありますが、新しいまちなみもあるとても住みよいまちです。平成22年、中区まちづくり会議の中で、中区を花いっぱいにしたいという気持ちから、花を種から育てて苗を地域で育てていただくグループとして、まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」をつくりました。サークルの名前は、花を通して人の輪ができるようなサークルになるよう、花の輪と書いて「花輪」と付けました。

## 1. 花スポットを地図に

春と秋の年2回種まきをして、芽が出てきたら株分けをしています。育てた苗を校区に分配して地域の公園や会館に植えていただいたり、イベントで配布したり、花輪のメンバーが近所の公園に植えたりしています。

あるとき、私たちの育てた苗がどこでどのように育っているのか、花を分配した地域へ取材に行って、自治会長や地域会館の管理人の皆さん、老人会のメンバーなど、たくさんの方に育てていただいていることが分かりました。「花輪」の世話役3人でまち中を取材して回ったのですが、どこの地域の方も皆さんお花が好きな方ばかりで、植えられている場所や周りの環境に合わせて、考えて育てていらっしゃいました。それ以外にも、花スポットのお花の世話をしながら小学生の登校の見守りをしてくださる方や、ウォーキングの途中で公園に立ち寄り、お水をまく方もいらっしゃいました。そこで、中区の花スポットを記した地図を作ってみてはどうかと思い、でき上がったのが「HANAPPU」です。

## 2. 親子交流のための活動

取材をする中でもう一つ気付いたのは、お世話をしていらっしゃるのは年配の方が多いことです。そこで、次に考えたのは、小さい子供さんがいる家庭でも花を育てて親子の交流に生かせないかということです。ペットボトルの植木鉢を200個手作りして、中区のイベント「子育て夏祭り」に参加された子供さんと保護者が、自分たちでペットボトルの植木鉢に苗を植えて持ち帰り、一緒に花を育てていただく取り組みをしました。

子供さんが小さくて花植えができない方は、花輪スタッフが子供さんを抱っこしてお母さんに作業していただいたり、土いじりのようにペットボトルに土を入れる子供の横で、お母さんとメンバーが「人見知りあるの？」「夜泣きが大変なんです」などと、いろいろな会話をしたりしました。子供さんやお母さんが笑顔になっただけでなく、花輪のメンバーも若いお母さんとの会話で懐かしく子育てのころを思い出して少し若返った気がするイベントでした。後日、「お花が大きくなりました」と声を掛けてくださる方もいて、親子で作業をして育てる喜びを感じていただける活動になったと思っています。

## 3. 小学校との連携

また、中区には電車の駅が泉北高速鉄道深井駅の一つしかありません。この駅前のフラワーポットのお世話をすることになり、そこに小学生の作品を展示することを思いつきました。突然の依頼にもかかわらず、区内の小学校から廃品を利用するなどの工夫を凝らし、とても素敵な作品を提供していただきました。一番近くの小学校からは、先生と児童が駅まで来て、花植えにも協力してくれました。

中区には 13 の小学校があるので、1 年で 4 校、3 年で全部の小学校の作品を展示しました。学校や学年にもよりますが、季節をテーマにして夏は提灯や音の出る風鈴、冬にはクリスマスツリーができたり、紙粘土で虫や動物を作って、それを割り箸にさして花や草の間から見えるようにしたり、カブトムシを針金で木に付けたりと、展示の仕方も工夫しました。私たちが作業をしていると、駅前を通る方がよく声を掛けてくださるのですが、子供たちの作品を展示するときには、しばらく足を止めて見ている方もいらっしゃいます。

たくさんの方が利用される駅前では、楽しいことばかりではありません。フラワーポットを灰皿代わりにたばこを捨てる方や、ビールやジュースの缶を捨てる方もいます。そこで、子供たちのメッセージをポスターにして掲示したところ、ごみは少なくなりました。このポスター作りにも、中区の小学校全校が協力してくれています。

駅前の美容室の方から協力の申し出があり、毎日駅前の様子を見てもらったり、時間があるときには植え付け作業の協力もしていただいたりしています。公共の場であり、中区のたった一つの駅を地域のみんなで美しくする取り組みに協力できることは、私たちにはとてもうれしいことです。

## 4. ウォーキングイベントの開催

平成 22 年 6 月からは、区役所をスタートしてウォーキングをしながら小学校に立ち寄り、子供たちと一緒に花を植えるイベント「歩こう　植えよう　咲かせよう　花の輪ウォーキング」を開いています。事前に、小学校と打ち合わせをして中区の自主活動グループでウォーキングをされている方々に協力してもらってコースを作ります。当日は、ウォーキングのメンバー、「花輪」のメンバー、一般参加の方々でウォーキングをしながら各小学校で待機している「花輪」メンバーと子供たちと一緒に、私たちが育てた苗を植えています。

初めは緊張した様子の子供たちですが、花を一緒に植えた後は笑顔でハイタッチを交わし、集合写真では仲良く横に並んで、帰るころには前から知り合いのおじちゃん、おばちゃんと会ったときのように笑顔で会話してくれるようになります。この企画も中区全部の小学校を回れるように続けていきたいと思っています。

このようにみんなで考えたことを形にしながら活動できるのも、堺市中区の行政と堺市公園協会、私たち地域の協働のたまものです。今後もたくさんの人と関わり合いながら、花いっぱい、笑顔いっぱいの中区を目指して頑張っていきたいと思っています。

**（加我）**　深井駅が最近本当にきれいになったなと思っていたのですが、皆さん方のお力だったと分かりました。花を通じて地域の方々、特に子供に伝えていくというのは、非常にいい取り組みですね。参加された子供たちの生の声をもう少しお聞きしたいのですが。

（Ａ）　子供たちと一緒にお花を植えた後、本当に仲良くなって「給食も食べていって」「帰らんといて」と言って手を引っ張られると、「もうこの子、連れて帰りたい」と思うぐらいです。いろいろな子供さんと出会いがあったことに、本当に感謝したいです。

● 発表資料

中区まちづくり
咲ークル
花輪

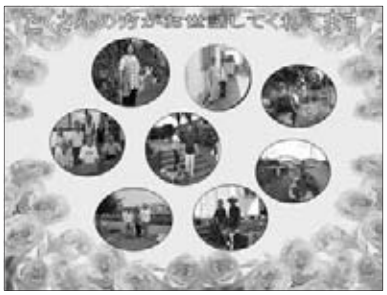
中区の街並み

暑い中の種植え作業

地域の方々へ分配中

公園前
地域会館前

分配した地域へ取材



子育て夏祭り

子どもも応援

たくさんの出会いがありました

中区唯一の駅【深井】

一生懸命つくりました

宮園小学校の生徒たち

きれいになりました！

夏のちょうちん

クリスマス飾り

紙粘土で工作しました

子どもたちのメッセージボード

美容室さんと花輪で植付です

花輪ウォーキング

まずは準備運動！
さあ出発！！

みんなで植えました
さあ！次の学校へ

事例発表④

# 「屋敷林における維持・保全活動の現状」

みどり大阪・屋敷林を守る会
福間 英美

私たちが活動している場所は、東大阪市今米の川中邸の屋敷林です。面積は約 5000m²、市の特別緑地保全地区です。ムクノキ、アキニレ、アラカシ、イヌマキ、クロガネモチ、クスノキ等の広葉樹林で構成され、真竹、唐竹などの竹林も広がっています。川中邸は、主屋と離れ座敷が国の登録有形文化財になっており、屋敷林自体は特別緑地保全地区で、「大阪みどりの百選」にも指定されています。

川中邸は、東大阪市を中心とする河内平野の開拓の機会をつくった中甚兵衛翁の生誕の地です。大和川の多くの支流が流れ込んでいた河内平野の農村は、江戸時代、毎年の洪水に悩まされていました。中甚兵衛は、洪水を何とか防ぐために、現在の安堂の辺りから堺の方に向けて川の付け替えをしたのです。安堂から延長約 16km、幅 183m という工事を約 8 カ月で完成した偉人です。そのおかげで現在、東大阪市には鴻池新田、稲田新田など多くの新田がありますが、これらの新田の開発の基礎をつくったのが中甚兵衛であり、現在の大阪市の繁栄の基礎をつくったとも言えます。

## 1. 川中邸を取り巻く状況

川中邸の敷地は台形のような形をしていて、周辺には工場やマンションが建ち並んでいます。今から約 50 年前、私がこの近くを通って高校に通っていたころ、周辺は田畑だったことを考えると、川中邸を取り巻く環境は非常に厳しい状態になっていると言えます。われわれの課題は、そういう中で川中邸を次世代に引き継ぐためにどのような活動をしなければならないかということです。

実際、特別緑地保全地区に指定された 1984 年ごろからしばらくの間は、大阪府や周辺の方のご協力も得て保全活動が行われたようですが、熱は次第に冷めていき、2000 年ぐらいから次第に保全活動が衰退し、萎縮して来ました。その結果、高木にはツタが絡み、高木自体が枯れて来ました。竹林でもタケノコが密集してしまい、竹同士の間隔が保てなくなっていました。まさに、消滅の危機にありました。

## 2. 屋敷林を守る会の成り立ち

東大阪市唯一の屋敷林を守るため、平成 24 年 4 月、NPO みどり大阪と一緒に「屋敷林を守る会」という会を立ち上げました。現在、川中邸屋敷林は「屋敷林を守る会」だけではなく、「今米緑地保全会」、「美杜里（みどり）の会」にも支えていただいています。「今米緑地保全会」は、イベントなどを実施して、われわれ「屋敷林を守る会」の資金を稼いでいただく団体です。それから「美杜里の会」には、夏の水やりや落ち葉の掃除などを月に何回か行っていただいています。

「屋敷林を守る会」の立ち上げに当たっては、いろいろなところに協力を頂きました。まずメンバーについては、東大阪市のみどり対策課が開いているボランティア教室の卒業生である森林ボランティアに、多数参加いただいています。高木の手入れに関しては、超ベテランで構成させていただきました。

## 3. 今後の課題

屋敷林の現状維持が目的ですので、高木の手入れといっても間伐するわけではありません。屋敷林内の環境をいかに保全していくかということで、湿度や温度などを維持しながら、枯死した高木の除去や低木林の枝すき、それから林床の植物の育成などを行っています。特に、希少植物の維持が大きな課題です。

今現在、全く枯れない限り、枯れた高木の枝打ちをするぐらいで、間伐はしていません。そして、その下に生える灌木類をある程度枝すきをするなどして、見るに耐えるようにしています。特に、自然樹形を大切にしていきたいという考え方を持って活動しています。

林床には、ウマスゲやセンニンソウなど、絶滅危惧種に指定されたものがたくさんあります。これらをいかに維持していくか、われわれ自身もまだ模索している状態です。100 年以上の歴史を持つ東大阪市唯一の屋敷林ですので、次の世代にできるだけ現状のまま引き継いでいきたいと考えています。

（Q）　日本には比較的、屋敷林や神社林が多いのですが、それを守っていくには、ただ枝を落としたり、高木をすいたりするのではなく、竹林であればある程度の間隔を持たせ、希少価値の高い植物は移植するなど、植物学者の先生に尋ねられてはどうかと思います。

（A）　おっしゃるとおりです。現在、われわれも屋敷林を守る方法や技術を模索中です。そういうことに関してご助言やご協力いただける方がいらっしゃったら、ぜひとも私どもの活動に参加していただければありがたいと思っています。そういう方がおられましたらご指導よろしくお願いします。

（Q２）　間伐はされないと伺いしましたが、いろいろなタイプの、いろいろな樹齢のものが混じっているのでしょうか、なぜ間伐されないのか、理由を教えていただけますか。

（A）　われわれは、なるべく現状のままこの屋敷林を維持したいのです。屋敷林全体のマント層を高木が支えています。高木を間伐してしまうと、林内の温度や湿度が変わる可能性があります。枯れ枝などはできる限り取り除いていますが、高木を間伐して屋敷林のマント層に間隙を作るようなことは、できるだけ避けたいのです。

奈良の春日野原始林は、木が倒れたら倒れたままに置いておきますが、屋敷林では危険なので、それはできません。木自体が枯れ込んだ場合には取り除きますが、今現在元気な高木は、取り除くことはしていません。

● 発表資料

河内の緑と歴史を
次世代に
河内平野の開拓者生誕の地
川中邸屋敷林
（みどり大阪・屋敷林を守る会）

屋敷林の概要
所在　東大阪市今米１丁目4-38
所有　個人所有（川中家）
面積　５，０００㎡
種別　特別緑地保全地区
植生　ムクノキ・アキニレ
アラカシ・イヌマキ
クロガネモチ・エノキ
などを主とする広葉樹林
である。
また、真竹・唐竹の竹林
が広がる。

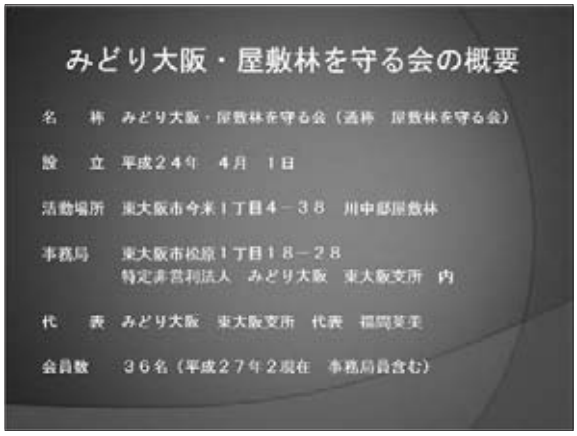
川中邸および屋敷林

中　甚兵衛翁

川中邸屋敷林周辺
約４０年前頃から周辺の市街化が急激に進み「屋敷林」を取り巻く環境が大きく変化しました。夏場の温度上昇や湿度の低下は動植物の生存に大きな影響をあたえています。

植物の競合性に
より破壊が進む
特別緑地保全地区に指定された1984年頃から保護活動が活発に行われていたが2005年頃から活動が衰退し、当会設立まで保護活動が停滞していた。
周辺環境の変化とともに消滅の危機に陥っていた。
ツタ類に絡まれる高木
竹の繁殖に悪影響しているムクノキ
竹の繁殖で竹林自体が衰退

東大阪唯一の
屋敷林を守る
東大阪市民のみならず大阪府民の歴史的遺産である「川中邸屋敷林」を守るため、平成２４年４月の活動開始を目標に「みどり大阪・屋敷林を守る会」を立ち上げました。
環境にあわせて屋敷林を守る会を立ち上げ主旨を東大阪市に説明行動の協力を要請
生駒山麓で蘇えた原始の森林
ボランティアメンバー集合
ベテラン揃い各自の判断で仕事が進む


みどり大阪・屋敷林を守る会の概要
名　称　みどり大阪・屋敷林を守る会（通称　屋敷林を守る会）
設　立　平成２４年　４月　１日
活動場所　東大阪市今米１丁目４－３８　川中邸屋敷林
事務局　東大阪市松原１丁目１８－２８
特定非営利法人　みどり大阪　東大阪支所　内
代　表　みどり大阪　東大阪支所　代表　福岡英美
会員数　３６名（平成２７年２現在　事務局員含む）

年間実施保全作業
保全作業として密集した林内に光、空気の流れ、林床に適度な降雨を取り入れ、健康な雑木林と竹林の環境を取り戻すことを目標としました。
（1）竹林の間伐を行い竹林内の適度な間隔を維持させる作業
（2）枯死した高木の除去及び枝打ち
（3）低木類の枝透き
（4）林床の除草と希少草本類の保護

竹林整備
繁殖しきった竹を間伐し竹林内に、光と風を取り込み健全に、保えうる竹林を目指す。
十数メートルに達する竹を何十ボンも切り出すのは、技術的にも、体力的にも至難の業

高木枝打ち
枯死した高木の枝打ちは害虫の発生抑制や新しい発芽を促す上に重も重要な作業です。
何分にも危険を伴う作業で、高い技術を要します。

低木（灌木）の枝透き
低木類は近い将来庭木として形作ることを目的に枝を透くと、ともに整枝剪定を行って行きます。また、枝を密集させないことにより、健康な林床づくりの一環でもあります。
この作業簡単なようですが、将来庭木としての樹形を考えながら進めなくてはなりません庭師としてのセンスが必要です。

除草と希少植物の保護
林内には、絶滅危惧種の植物もあります。ウマスゲ・センニンソウなど河内平野に多く植られた植物も減少し、その保護活動も重要な仕事です。
この仕事は、手作業で根きかぶめて行うので重労働です。同時に除草も手作業で行い他の草本類も傷つけないよう進めます。

大阪府民の誇れる緑の歴史遺産の保護活動に今後とも御支援賜る様お願い申し上げます。
機会がありましたら是非、足をお運び頂きますようお願い申し上げます。

事例発表⑤

# 「まちづくりリ-ダ-養成講座ＯＢ会の１２年間の歩み」

まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会
安尾 昌子

まちづくりリーダー養成講座 OB 会の、平成 14～25 年の歩みを発表させていただきます。OB 会は、加古川市が主催している「花とみどりのまちづくりリーダー養成講座」の修了生で構成しています。370 名の修了生のうち 165 名が入会しています。多くは NPO 加古川緑花クラブの会員でもあります。主な活動は授業で造った花壇や庭園の維持管理で、合計すると約 860m²、花壇を 1 周すると 1.2km ぐらいあります。

養成講座は、緑化ボランティアの養成を主たる目的とし、花と緑を手段にした人間性あふれるコミュニティーを創造すること、ボランティア精神を育み、活動を通じて自らの自己実現を図ることをコンセプトにしています。

まず、植物の知識と技術をつけるため、種から育てて自分たちでポット上げをし、花壇を企画・デザインしています。種から育てる花壇というのは本当に強いということを学ぶのです。植え替えるときには草花を捨ててしまわずに、染色に使ったりもしています。一番大切なのは土づくりだということで、アベマキ、コナラ、クヌギなどの広葉樹を堆積し、ぬかや油カスなどを入れ、月 1 回の切り返しを行いながら 1 年かけて腐葉土を作っています。

## 1. 日岡山公園の見どころづくり

そういうことをしながら、日岡山公園そのものをもっと魅力あるものにしようと、見どころづくりを始めました。つまり、既設花壇のリニューアルです。日岡山公園は、昭和 32 年に市の総合公園として開設され、面積が結構大きくて 36ha あります。中には日岡神社、日岡御陵などの歴史的なものがあり、野球場、体育館、武道館といった近代的な設備が整っています。一般的に日岡山公園といえば、桜見物で有名という程度で、それほど特徴がある公園とは言えませんでした。

リニューアルの目的は､既設施設を活用して新たな価値づくりをすること､やりがいや生きがい、仲間づくりを進めることです。そして、来場した方々が仲間をつくって、リニューアルの主催者になっていくということを考えました。さらに、次世代の子供たちに自然の楽しみを与えること、健康づくりという目的もあります。

日岡山公園は、緑は豊かなのですが、花のない公園でした。そこをリニューアルするということで、最初は一年草を中心に植えていき、今は宿根草を中心に使って手間暇のかからない形にして、やっています。

花壇造りの方針は、水やり・植え替えが少ないローメンテナンスを目指すというものです。自家製の腐葉土を使って土壌を改善し、農薬はほとんど使いません。植えるときにオルトランを少し使うぐらいです。花壇造りにもお金は掛けず、廃材でも何でも利用しました。日岡山公園を新名所にしようということで、今までの講座で作った花壇をつないで「ガーデンロード」と名付け、ガーデンロード・マップを作成しました。

日岡山公園はできて何十年も経っている公園ですので、木が大きくなって真っ暗な状態になって

いました。あまり木を切ることもできないので、少しでも来園する楽しみになるものを作ろうということで、のじぎく兵庫国体のときに使った淡路瓦など 8000 枚を無料でもらってきて、いろいろなオブジェを作りました。配水池跡も何とか人が来るような場所にしようということで、瓦を使って投網をイメージしたオブジェを作りました。全部手作りで、当時植えた植物は、水をあまりやらなくても元気に育っています。毎年、それぞれの学年で知恵を出し合いながら、全て自分たちの手作業でやっています。

公園の入口近くにはサツキやツツジがたくさんあったのですが、それ以外に特徴のある植物がほとんど植わっていなくて、春のツツジの時期が過ぎると見どころがなくなってしまうということで、木を伐採したり、ツツジを小さくしたりして、ロックガーデンのような宿根草中心の花壇を作りました。

人々が憩うようなデッキも作ろうということで、デザインから施工まで全て町の人たちの協力でやりました。さらに、散歩コースもない状態だったので、道路際にスイセンなどを植えたりもしました。2011 年の東日本大震災のときに作った絆花壇は、今ではとてもきれいになっています。

卒業後も持続可能な活動をするために、卒業生を中心に NPO 加古川緑花クラブを立ち上げて、市から委託を受け公園外で作った花壇を管理しています。加古川駅などで花壇を手作りしており、結構広いところでも石を敷くところから全て自分たちで作りました。

## 2. 公園の魅力発信

しかし、日岡山に新名所を作ったところで、なかなか人は来てくれません。そこで、インタープリターというものを養成し、公園の魅力を人々に伝えたいということで、インタープリター養成講座を始めるようになりました。

講座では、カクレミノという植物を使ってじゃんけんをして遊んだり、どんぐりがたくさん採れますので、子供たちと一緒にどんぐりでいろいろなものを作ったりしながら異世代交流をしています。公園の魅力を来園者に伝え、自然を身近に感じてもらうとともに、自然観察を通じて自然の移り変わりや環境の変化、あるべき自然を考え、私たちに何ができるのかを考えていけるような会にしたいと思っています。

高齢者の受講者がかなり多いのですが、子供たちに自然の素晴らしさや厳しさを共に感じ、伝えてもらいたいと考えています。異世代の交流にも力を入れていて、講座ではアベマキの殻斗とどんぐりで面白いものを作ったり、ヒマラヤシーダーというヒマラヤ杉の球果がバラのような形になるのを見せたりして、大人も結構夢中になりながら取り組んできました。

## 3. さらに翼を広げて

また、小学校や高校、他のボランティアグループともコラボしながら活動を広げています。成果としては、一昨年、兵庫県から人間サイズのまちづくり賞を頂き、昨年 6 月にはまちづくり功労者国土交通大臣賞、10 月には第 24 回全国花のまちづくりコンクールの大賞にも選ばれました。

活動をより広く展開していくために、私たちに何ができるのか考えたとき、あまり大きなことを考えても方法論が分からないので、取りあえず体力が続く限り、自己実現の場という形でやっていこう、そこで知り得た人間関係を通じて生涯現役でやっていこうということで現在に至っています。それを継続するために、今年も 4 月からリーダー養成講座を開く予定です。

● 発表資料

## まちづくりリーダー養成講座 OB会の活動について

平成14年から25年まで
12年の歩み

## OB会の概要

- 加古川市花とみどりのリーダー養成講座は平成14年に開講され、OB会は12年の活動
- まちづくりリーダー養成講座の修了生（370名）で構成され、構成員165名
- 多くはNPO加古川緑花クラブの会員
- 各期の修了生自主的に、花壇・庭園を管理している。（水やり、草取り、植え替えなど）
- 花壇・庭園面積約860㎡
- 花壇一周すると　約1.2km

## 花とみどりのまちづくりリーダー養成講座の誕生

- 身近な緑の有効利用と、花と緑にあふれたまち、美しく優しいふるさとづくり
- 「ひと・まち・自然がきらめく清流文化都市　加古川」の実現を目指す
- 緑化ボランティアの養成

## 講座のコンセプト

- 花と緑を手段にした人間性あふれるコミュニティの創造
- ボランティア精神を育み、活動を通じて自らの自己実現を目指す

## 植物の育成

## 日岡山公園見所作り

既設花壇のリニューアル

## 日岡山公園について

- 昭和32年、市の総合公園として開設
- 面積は約36ha、日岡神社、日岡御陵とも隣接し、古墳群を擁する歴史的な価値
- 野球場、体育館、武道館、サッカー場、プール、テニスコートなどの近代的施設の整った公園
- 春の桜見物で有名。
- 渡り鳥・渡りチョウとして有名な「アサギマダラ」の飛来

## リニューアルの目的

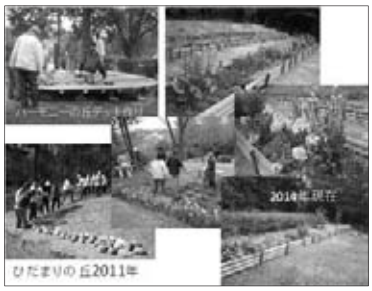
- 既設施設を活用し、新たな価値づくり
- やりがい・生きがいづくり、仲間づくり
- 来園者から主催者に
- 子供たちに自然の楽しみを
- 健康づくり

## 既設花壇リニューアル

## 花壇づくりのコンセプト

- 水やり・植替えの少いローメンテナンス
- 自家製の腐葉土を使って土壌を改善
- 農薬はできるだけ使わない（植付け時に浸透移行性のオルトラン粒剤を少しだけ）
- 廃物も、あるものを何でも利用。

日岡山公園ガーデンロード・マップ



## NPO加古川緑花クラブの立上げ

- リーダー養成講座修了生を中心として修了認定者370名（H26.3.22現在）
- 住民主体の「花と緑のまちづくり」
- 平成17年12月1日設立
- 会員数135名（H26.5.18現在）
- 目的：持続可能な活動を推進し、会員同士のコミュニケーションを活発にして、地域のコミュニティ形成に尽力し、自身の自己実現を図る。

## 日岡山公園インタープリターとは

- 日岡山公園の魅力を来園者に伝える。
- 自然（いきもの）を身近に感じ、伝える。
- 自然観察を通じて、自然の移り変わり、環境の変化、あるべき自然を考え、私たちにできることを始める。
- 子供たちに自然の素晴らしさ、厳しさをともに感じ、伝える。
- 異世代の交流、人としての交流を図る。

## さらに翼を広げて

- 氷丘小学校校外体験学習に協力・支援
  植栽、自然観察、農業土づくりなど
- 県立加古川北高校「総合的な学習の時間～公共」における奉仕活動支援
  ボランティア活動の講演と実施（清掃・雑草除去作業など）
- 緑化ボランティアグループ「日岡はなくらぶ」とのコラボ（植栽・清掃、園内案内など）
  日岡はなくらぶには養成講座の1期生が多数参加
  年2回市が配布する各6～7万本のペチュニア、ビオラのポット上げに協力

## 今　　後

- OB会の会員は地域の公園、公共施設の花壇の維持管理にも活躍。さらに体力が続くまで頑張る。
- 花・みどりを通じて地縁から知縁へ
- 生涯現役をめざす

事例発表⑥

# 「デザインの視点から『みどり』に関わっている活動の紹介」

ＮＰＯ法人 環境デザイン･エキスパーツ･ネットワーク
井上 博晶

私たちは Environmental. Design Expert's Network という団体名で、「E.D.E.N.（エデン）」と呼んでいただいています。事業内容は、環境デザイン支援事業、まちづくり支援事業、能力開発支援事業の三つです。共通するものにデザインがあるのですが、私たちはきれいなもの、かっこいいもの、ブランドといった見えるデザインだけではなく、見えないものもデザインしていこうという形で事業をしています。伝えたいこと、やりたいことの交通整理をしたり、この人とこの人が一緒に取り組んだらもっといいものができるのではないかといった仕組みづくりなどにデザインの手法を取り入れながら事業を展開しています。

## 1.「みどり」の良さを伝えたい

私たちは、今年度、大阪府、大阪市、大阪産業大学と国際花と緑の博覧会記念協会が協働で作られた緑化啓発パンフレットの編集協力をしました。パンフレットは、民間の協力も頂いて、府内の小学 5 年生 8 万人全員に配布されました。大阪府も大阪市も、みどりの良さを小学生にどんどん伝えていこうと思っているということで協力したものです。

今日のテーマもそうですが、「みどり」はなぜ平仮名なのか。森林・都市の樹林、樹木、草花等植物としてのみどりだけでなく、公園や農地に加え、河川や池などの水辺や民有地の緑地や屋上緑化なども、平仮名の「みどり」です。そして、これらの環境に生育する生き物も、みどりに関わるさまざまな活動や取り組みも含めて「みどり」です。私たちは、「みどり」とは何なのか、小学生にも簡単に伝わるようにパンフレットのデザインを考えました。どういう構成にしたら伝わるか、どういう内容にしたら伝わるかと考えて、「みどりがあると涼しい」「みどりは生き物のすみか」「みどりがあると空気がきれい」「みどりがあると水がきれい」「みどりはきれい」「おいしいみどり」「守ってくれるみどり」「みどりがあると元気になる」「みどりがあるとにぎわう」「みどりはたからもの」。こういう 10 個の切り口で「みどり」を伝えようという形で紙面を編集しました。

## 2. 余った竹がもったいない

切った竹を山積みにして腐るのを待つということがよくあると思うのですが、竹があまりにもったいないというところから活動した事例を紹介します。

「竹姫納豆」は、地域を愛する産学民の連携で生まれた商品です。私たちが竹材を使ったワークショップを開き、竹細工や竹のテント、竹トンボを作っていたら、同じ地域で事業をされている納豆メーカーの方が「竹材で商品開発をしたい」と協力を申し出てくれたのです。地域の大学生にも協力を得ながら商品開発を進めました。

多くの竹林は荒れています。大東市だけでなく、全国的にそうだと思いますが、間伐はするけれども竹材は使われません。里山の管理をするボランティアはたくさんいらっしゃいます。その一方で、おいしいものでまちを PR したい、地域の名産を作りたいという思いを持った方がいらっしゃ

います。そういうこと・ものをいろいろかき集め、地域で採れた竹筒を容器にし、国産大豆 100%の天然納豆菌で作った竹姫納豆を開発しました。デザインは学生と社会人が一緒に手掛けました。

竹の容器は、地元の竹林管理ボランティアと一緒に竹を切って納豆メーカーに供給しています。メーカーは竹容器に大豆を入れ商品を完成させます。商品が売れると、そのお金はボランティアに回り、また竹容器をつくれるようになります。このような仕組みの部分もデザインしました。また、ホームページを作ったり新聞を発行したりして、プロジェクトの進展を伝えるということもしました。

### 3. 多くの人に公園を使ってもらいたい

大東市にある大阪府営深北緑地は、寝屋川が氾濫して洪水にならないように治水機能を持っているため、川の水に埋もれやすく、施設的にしっかりしたものが置けません。しかし、いろいろな方に来ていただいて、公園を楽しい場所にしてほしいということで、「ザ・夕涼み～今年も野外映画やります～」という事業をやっています。私たちは 2 回目から参加したのですが、地域みんなで子どもたちを「見守る目」となり、地域の「つながりが生まれる機会」にしたいという地元のボランティアが集まり、何回も会議を重ねて、毎年映画を上映しています。

本来、野球場施設には野球をするためにしか入れないのですが、1 年に 1 回特別な許可を頂いて、芝生部分にお子さまやご家族、シニアの方々に入っていただき、夜間営業します。小さい子どもさんは走り回ったりしています。1 回目は 350 人ぐらいでしたが、最近はスタッフを入れて 1500 人位参加するようになっています。大学生、地元の郵便局や、環境を守る活動をされているシニアの方々など 100 名近くのボランティアで運営しています。

他には、大阪府内の里山管理をしている団体に寄付を届ける「チャリティネット森が好き！」という事業に企画から参加し、寄付カタログづくりに協力したり、大東市にたくさんある水路を少しでもきれいにしたいということで、先ほどの竹姫納豆の納豆菌や竹炭を活用して水質浄化する活動に関わるなどしています。

以上、デザインの視点から『みどり』に関わっている私たちの活動紹介を終わります。

（Q）　納豆菌を使った水質浄化は、効果が現れていますか。

（A）　水の透明度は、活動前より明らかに高くなっています。水に詳しい大学の先生にも協力いただいているのですが、その方は、竹炭にたくさん開いている穴にゴミが付着していることから、水質浄化の機能は働いていると仰っていました。

（Q）　今はどこへ行っても竹が密生しています。その竹を粉砕して、堆肥化か何かできないかと思うのですが、どうでしょうか。

（A）　すぐに燃え尽きてしまうので燃料に使うのは難しいといわれていますが、大東市内にバイオマス発電所が建設中なので、そういうところでは使えたりするのかなと思ったりしています。いずれにしても、なかなか良い用途がないので、少しでも材として楽しく使えるきっかけづくりをして、里山の現状を知ってもらえる機会が増えればいいなと思って活動しています。

● 発表資料

デザインの視点から
「みどり」に関わっている活動の紹介

特定非営利活動法人
環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク

---

団体紹介
事業紹介

2

---

特定非営利活動法人
環境デザイン・
エキスパーツ・ネットワーク
Enviornmental Design Expert's Network

略称　NPO−E.D.E.N.
（エヌピーオー　エデン）

3

---

## 主な活動エリア

4

---

## 事業内容

環境デザイン支援事業
まちづくり支援事業
能力開発支援事業

5

---

## キーワード

デザイン、ランドスケープ、
景観、まちづくり、建築、
コミュニティ、若者、学生、
ワークショップ、協働、

6

---

## 「デザイン」！？

- 綺麗なもの
- かっこいいもの
- ブランド

7

---

## 見えるデザイン
## 見えないデザイン

- 伝えたい事、
- やりたい事の交通整理、
- 近くで見たり、遠くで見たり、
- 一緒に取組んだらどうなるか、

8

---

## デザインの力で課題を解決

- 『みどり』の良さを伝えたい。
- 切った竹がたくさん余っている。もったいない。
- もっと多くのひとに公園を使ってもらいたい。

9

---

## 『みどり』の良さを伝えたい

10

---

## 緑化啓発パンフレット
## 『みどりって？』編集

大阪府、大阪市、大阪産業大学
国際花と緑の博覧会記念協会

府内の小学生５年生全員 配付

11

---

## 「みどり」

森林・都市の樹林、樹木、草花等の植物としてのみどりだけでなく、公園、農地に加え、河川・池などの水辺や民有地の緑地や屋上緑化などをさします。そしてこれらの環境に生育する生き物も、みどりに係る様々な活動や取組みも含めて「みどり」といいます。

12

---

13

---

14

---

## みどりのおかげ　みどりのいいこと

- 「みどり」があると楽しい
- 「みどり」は、生き物のすみか
- 「みどり」があると、空気がきれい
- 「みどり」があると、水がきれい
- 「みどり」は、きれい
- おいしい「みどり」
- 守ってくれる「みどり」
- 「みどり」があると、元気になる
- 「みどり」があると、にぎわう
- 「みどり」は、たからもの

15

---

## 竹がたくさん余っている。
## もったいない。

16

---

## 竹姫納豆

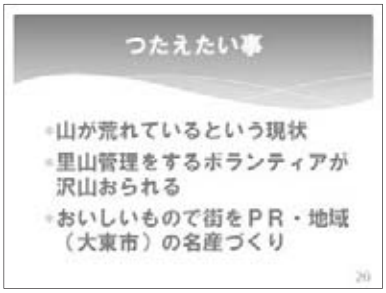
地域を愛する
産・学・民の連携でうまれた納豆

17

---

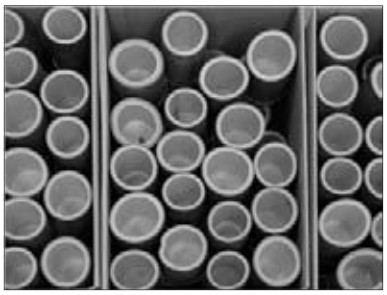
## 産・学・民　連携

多くの竹林が
荒れている
竹を間伐しても
使われて無い
19


つたえたい事
山が荒れているという現状
里山管理をするボランティアが沢山おられる
おいしいもので街をＰＲ・地域（大東市）の名産づくり
20

地域で採れた竹筒を容器に
国産大豆100％ 天然納豆菌
竹姫納豆
21

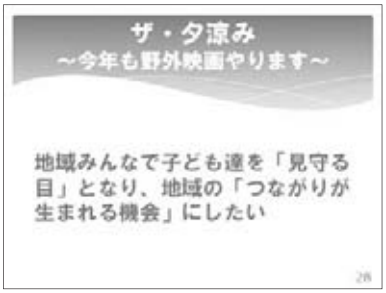
竹林管理ボランティア
活動支援
竹材供給
商品つくり
小金屋食品株式会社
大阪産業大学
22



新聞発行
プロジェクトの
進展を
伝えています。
1号～12号発行
25

大豆新聞
全て閲覧可
竹姫納豆
専用ページ
26

もっと多くのひとに公園を
使ってもらいたい。
27


ザ・夕涼み
～今年も野外映画やります～
地域みんなで子ども達を「見守る目」となり、地域の「つながりが生まれる機会」にしたい
28

30

31

32

チャリティネット森が好き！
33

34

MACHI STATION
35

河川の水質浄化社会実験
36

事例発表⑦

# 「箕面川清掃イベント、McK 班、壁面緑化班」

大阪大学環境サークルＧＥＣＳ
石川 由美子･長谷部 弘樹･小島 健太郎･村田 奈々瀬

大阪大学環境サークル GECS は､学生の立場から環境問題の改善に貢献するという理念の下､日々活動しています。

## 1. McK 班のごみ拾い活動

McK 班は、「まちをきれいに」という目的を掲げて週 1 回、大学に近い石橋という地域でごみ拾いをしています。ごみ拾いだけでは問題の解決にはならないので、活動の際にはごみに関するデータを収集しています。石橋地域をエリアで分け、週ごとにエリアを変えてごみ拾いし、エリアごとにかかった時間、ごみの量、ごみ拾いをした人数などを記録しています。

回数を重ねることで、たばこのポイ捨てが多いことが分かってきました。そこで、たばこの本数をエリアごとに記録したり､ごみが集中している場所を写真に残したりと詳しく調べていった結果、エリア 7 という場所にごみが多く、特に踏切の横の溝にごみが集中していて、約 350 本のたばこの吸い殻があったことが明らかになりました。

私たちは、ポイ捨てしにくい環境をつくりたいと、班で話し合って溝に蓋を設置する案を考えました。そして、池田市役所を訪ねてごみ拾いで集めたデータを提出し、この場所を管理している阪急電鉄とも話し合って、昨年 8 月に蓋が設置されました。その後のデータからごみが減っていることが分かり、捨てにくい環境づくりに一歩近づいたのではないかと思っています。

さらに、石橋商店街の皆さんと楽しくごみ拾いを行ったり、私たちが石橋商店街で行われたお祭りに参加して、フォトラリーごみ拾いというゲーム性を持たせた企画を考えて、楽しくごみ拾いをしつつ、地域のごみ問題について地域の子供たちにも考えてもらう機会をつくるといった交流も生まれています。

このように、私たちは独自に集めたごみ拾いのデータを基に対策をするなど、「まちをきれいに」という目的に向けて、自分たちで工夫しながら活動しています。また、McK 班には、学内禁煙に合わせて、大学の保健センター、安全衛生管理部と協力体制を築いて活動してきたノウハウがあります。それをもとに、石橋においても池田市役所、池田青年会議所といった地元組織との連携を深め、さらに去年の蓋設置企画でお世話になった池田市や阪急電鉄等、多くのつながりを生かして、質の高い活動をしています。これからも、さらに石橋の環境を改善するような活動ができるよう、地域の方たちのつながりを重視し、協働の幅を広げていこうと考えています。

## 2. 壁面緑化班

壁面緑化とは、壁や窓につる状の植物をはわせることで植物の蒸散効果などを生かし、夏の節電につなげるものです。また、実や花のつく植物を育てることで、育てても楽しい、見ても楽しい環境活動になっています。

壁面緑化は、まず 5～6 月に苗を植え、7 月にはみどりのカーテンが横に広がるよう芽の先を切る摘芯をします。そして 8 月にカーテンが完成します。

壁面緑化班は、箕面市の団体「みどりのカーテン広げ隊」と連携して活動しています。壁面緑化班といっても、当初は植物についての知識がなかったので、知識面のサポートをしていただいています。壁面緑化を通して、地域の方と出会い、共に活動しています。

今年度は、大阪大学内にあるレストラン宙（そら）、箕面市にあるらいとぴあという施設で壁面緑化を行いました。また、新しい取り組みとして、個人宅の壁面緑化も行いました。

## 3. 箕面川を清掃

川清掃の企画は、今年度は「1 回生イベント」と「AQUA SOCIAL FES!!」の 2 回実施することができました。

1 回生イベントは、1 年生全員が企画・運営し、箕面川を清掃するイベントです。8 回目の開催となった昨年 6 月は、178 名が参加して 300.4kg ものごみを拾うことができました。当日は、川清掃だけでなく、レクリエーションをしたり、環境に関するクイズで楽しんだりしました。

入ったばかりの 1 回生はまだ何も分からないので、GECS には 2 回生がサポートに入る「摂政」というシステムがあります。その助けを得て、1 年生はイベントの質を高めるミーティング、現場を知るためのシミュレーション、多くの人を巻き込む広報戦略など、自分たちに何ができるかを考え、実行に移していきます。そして、イベントを通して達成感を得て、環境活動に興味を持ち、活動する楽しさを知ります。スキルとモチベーションの両方が成長することで、今後の活動へとつながっていくのです。

しかし、1 回生イベントには、まだ課題も多くあります。年に 1 回しか行われていないという継続性の問題、参加者層の幅が狭いという問題、イベントのマンネリ化などです。もっと幅広い世代に活動に参加してほしい、もっと川をきれいにしたい、もっと楽しいイベントにしたい、つまり、もっといろいろな人と楽しんで環境活動をしたい。「より社会へ、より環境活動を、より GECS らしく」という思いで立ち上げたのが、AQUA SOCIAL FES!!です。

私たちはイベントをゼロからつくり上げて電通や大阪トヨタ、箕面市、大阪府に提案し、産官学協働でイベントを行うことができました。事前に行った産官学連携の強みを生かすための合同ミーティングは、AQUA SOCIAL FES!!の理念である「それぞれができることを持ち寄って、あしたの『いいね！』を楽しくつくる」を実現したものでもあります。それにより、幅広いつながりが生まれ、社会により広く発信できたと考えています。

こうして行った AQUA SOCIAL FES!!で、私たちは産官学協働の大事さを痛感しました。さらに、地域の方々と一体感を持って活動できたことが大きいので、これからも産官学だけでなく、近隣住民の「民」も加えた産官学民で協働の幅を広げながら、社会を巻き込み、仲間と共に楽しみながら、より質の高い環境活動を続けていきたいと思っています。そして、そうすることで、イベントや川清掃の継続性が生まれると考えています。

● 発表資料

大阪大学環境サークルGECS

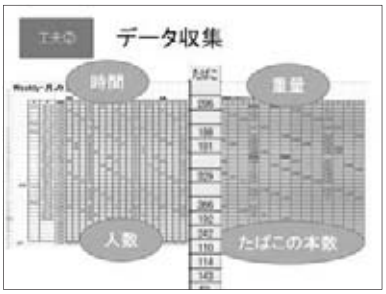
『学生』という立場から、
環境問題の改善に貢献する
GECS
班活動
川清掃
ecocon
地域の祭りスタッフ
etc...

McK班 目次
目的
活動紹介
まとめ

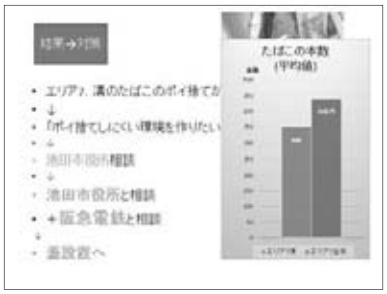
目的
・大阪大学やその周辺地域について
分別
ポイ捨て
排出量
・「まちをきれいに」「Machi wo Kirei ni」

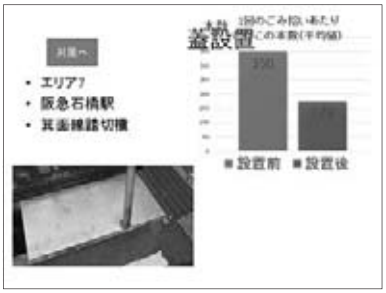
活動紹介
石橋ごみ拾い
・工夫
・・エリア分け
・・データ測定

工夫①
エリア区分
石橋駅周辺を7つのエリアに


工夫②
データ収集
時間
重量
人数
たばこの本数

結果
1回のごみ拾いあたり たばこの本数
(平均値)(2014/1～2014/8)
エリア1 エリア2 エリア3 エリア4 エリア5 エリア6 エリア7


結果→対策
・エリア7、溝のたばこのポイ捨てが
・↓
・「ポイ捨てしにくい環境を作りたい
・池田市役所相談
・池田市役所と相談
・＋阪急電鉄と相談
・蓋設置へ
たばこの本数
(平均値)


対策へ
蓋設置
・エリア7
・阪急石橋駅
・其面線路切換
■設置前 ■設置後

楽しくごみ拾いがしたい！
ハロウィンごみ拾い
・GECS活動日
・McK班以外の
・メンバーと
・ごみ拾い♪

活動
分煙推進企画
まちかね祭
禁煙推進

＊壁面緑化とは？
壁面緑化班

＊壁面緑化の1年
5～6月 苗植え
7月 摘芯
8月 カーテン完成！
10月 撤去

＊みどりのカーテン広げ隊
・植物の知識面のサポート
・壁面緑化を通して地域の方と出会い、ともに活動する

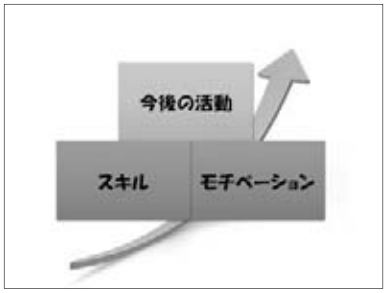
＊今年度の壁面緑化
・大阪大学レストラン亜
・らいとびあ
・個人宅

『学生』という立場から、
環境問題の改善に貢献する
GECS
班活動
川清掃
ecocon
地域の祭りスタッフ
etc...

1回生イベント
300+
ASF!!2014

川清掃
レクリエーション
環境クイズ

質を高めるための
ミーティング
現場を知るための
シミュレーション
多くの人を巻き込む
広報戦略
自分たちに何ができるか
考え・実行


今後の活動
スキル
モチベーション

参加者
マンネリ化
継続性

もっと幅広い世代に参加してほしい
もっと川をきれいにしたい
もっといろんな人と
で環境活動したい
もっと楽しいイベントにしたい

AQUA SOCIAL FES!!2014
箕面川図鑑を作ろう！

大阪トヨタへ企画提案
0からの創出

産官学協働
dentsu
GECS

発信力
TOYOTA
大阪府
大阪トヨタ
GECS
箕面市

平成26年11月9日付
産経新聞 朝刊
社会へ幅広く発信
TOYOTA自動車(株)
AQUA SOCIAL FES!! 公式FB

よりGECSらしく

生き物調査
環境活動×わくわく

箕面川図鑑を作ろう！

どんな生物がいたかな？
参加者の
感想・気持ち？
どんなゴミが
落ちていた…？
参加者全員で
箕面川図鑑作り

社会を巻き込み
仲間とともに
楽しみながら
環境活動を！

Thank you for your listening!
大阪大学環境サークルGECS

事例発表⑧

# 「ピンチをチャンスに変えて花のまちづくり」

六甲アイランド CITY 自治会 RIC ローズガーデンファミリー
實光 良夫

六甲アイランドは神戸市が造った海上文化都市で、人口は 1 万 8400 人です。

RIC ローズガーデンはちょうどその真ん中辺り、六甲ライナーのセンター駅西側にあります。周辺には商業ビルが立ち並び、アイランドの中央には人工の川が流れています。

## 1. 活動のきっかけ

阪神・淡路大震災後、神戸市から、人工河川の水漏れがなかなか直らないので、支流部分を埋め立てたいという話がありました。われわれは、震災のとき、川の水が生活水として非常に役立ったことなどから反対したのですが、多額の改修費用が掛かるということで埋め立てが決まりました。

埋め立て後の利用方法について住民にアンケートを取ったところ、花壇という意見が多く、プロジェクトチームを立ち上げることになりました。ちょうどそのころ、アイランド内にある神戸国際大学の白砂伸夫先生が六甲アイランドガーデン構想を発表されていたことからご相談して、バラ園にすることになりました。白砂先生のアイデアで、立柱があったり、石畳が入っていたりと、皆さんがバラを楽しめるような形になっています。

## 2. バラ園造り

バラ園造りは、分担して行いました。設計については白砂先生にお任せし、神戸市は園の造成、自治会は維持管理をすることになり、神戸市と自治会の間で花壇の維持管理に関する協定を結びました。また、バラを使って何かしようということで、白砂先生のゼミ生と自治会でバラ祭りを企画し、ワインの無料サービスなどを考えました。このように、三者で河川をローズガーデンに変えて魅力的なまちづくりを目指しました。ピンチをチャンスに変えたのです。

プロジェクトチームで検討した結果、まちの中にあって子供が通ったりするので無農薬で維持管理でき、世話をするのが素人のわれわれなので、なるべく手が掛からず、一年中花が咲くバラ園の設計をお願いしました。また、とげがあって危険だということを知らせるため、小学生に植栽の手伝いをさせて知識を与えたり、手作りの看板を作ったりしました。水まきは、われわれの手で育てていかなければいけないということで自動散水にはせず、神戸市にお願いして散水栓とホースの収納場所を作っていただきました。

植栽は、地元の小学 1～2 年生など約 350 名を集めて行いました。鉄柱を立てて、バラを立体化して見せる工夫もしています。バラ園には、41 種類、200 本のバラと、宿根草を混植しています。一年中花を咲かせるためには宿根草を入れないと駄目だということと、バラだけでは寂しいからです。面積も 240m² と、われわれには手頃な広さだと思っています。ビル街の中心地にありますので、やはり皆が楽しめることが重要だということで、中央に石畳を設けて中を歩けるようにし、バラを身近に感じられる空間になっています。

## 3. ローズガーデンファミリーの概要

われわれは、維持管理の団体として、プロジェクトメンバーを主体としたボランティアグループをつくることにしました。それがローズガーデンファミリーです。六甲アイランド CITY の全住民に参加を募り、現在 43 名で活動しています。自治会内の無償のボランティアグループで、全員がボランティア保険に加入しています。

女性 25 名、男性 18 名で、年齢構成は 3 分の 2 が 65 歳以上で、最高齢は 82 歳です。ミーティングを開いて作業内容等の確認をしているほか、バラ祭りを毎年開いています。今年は 4 回目で 5 月 16〜31 日に予定しています。期間中は、ワインの無料サービスのほか、シャンソン歌手や、六甲アイランド高校吹奏楽部など地元のグループに出演してもらったり、ローズティーのサービスをして、いろいろ話をして会員の獲得につなげています。毎年 2〜3 名程度加入しますが、体調不良等を理由に退会者も 2〜3 名出ています。家族のように温かい雰囲気を大切にしたいとの思いから、「ファミリー」と命名して、オレンジ色のジャンパーを着て作業しています。経験が乏しいので、年 2 回の講習会のほか、他のバラ園の見学バス旅行にも行っています。初めは播磨中央公園など兵庫県内の近いところに行き、去年は福山のバラ公園まで見に行きました。そして先方の管理人さんなどと意見交換し、情報を収集してスキルアップを図っています。

日常作業としては、みんなに手を掛けさせないように原則週 1 回、6 月と 11 月は週 2 回、7 月と 9 月は週 3 回、8 月は週 4 回としています。全員参加の作業が年 2 回あり、9 月は四季咲きバラの剪定、12 月はつるバラの剪定をしています。バラは、割と細かい作業は要らないそうですが、無農薬なのでアブラムシがたくさん発生するため、みんなで手分けして、小まめに手で取っています。花がら摘み、落ち葉拾いも小まめに行っており、バラの病気予防と美観を保つことの一石二鳥になっています。その結果、今では、作業を見ている住民から温かい声を頂き、いつも励まされています。

## 4. 活動の成果と今後の展開

われわれ素人に人工の川をバラ園にすることができるのか非常に心配だったので、神戸市との協定には駄目だったら戻せるという内容も入っています。バラ園は川の形を残しており、その意味ではいつでも戻せるのです。しかし、現在は川で残すよりもローズガーデンにして良かったという声が聞かれるようになり、われわれも胸をなで下ろしています。バラ祭りで行ったアンケート調査でも、ローズガーデンはまちづくりに役立つという意見を多く頂きました。

六甲アイランドには、管理マンションが 16 もあります。今後は、マンションの庭にもバラを広げていきたいと考えています。そのためには、人材を増やさなければいけませんし、リーダーも養成しなければなりません。バラ祭りを見直し、島内の住民だけでなく、島外からも多くの方に来ていただけるイベントにして、六甲アイランドの素晴らしさをアピールしていきたいと思っています。

バラがあって、水があって、六甲山が見えるロケーションは絶景です。バラ祭りをぜひ見に来ていただきたいと思います。

## ● 発表資料

### ピンチをチャンスに変えて 花のまちづくり

六甲アイランドCITY自治会
ローズガーデンファミリー

2015年2月

### 六甲アイランドの全体写真

六甲山側から見た全景

海側から見た全景

神戸市が海上を埋め立てて造った海上支生都市
・1972年12月に埋め立て着工 総面積2580ha
・1998年3月から入居開始、現在は人口18、400名

### 六甲アイランド全体マップ

原田ローズガーデンは六甲アイランドの商業ビル群の中心にあります。

### 活動のきっかけ（人工河川からバラ園へ）

☆2010年7月

- 神戸市が「阪神淡路大震災の被害を受けたあと、経年変化が進み、多数の水漏れが発生していた一部支流について、完全な修復はコスト面で困難との結論になり、支流の人工河川を平地として埋めて維持管理を住民がするのであれば賛成したいとの話があった。
- 住民としては、まちのシンボル的な川を埋めることに大反対でした。

### 活動のきっかけ（人工河川からバラ園へ）

☆2010年11月

- 六甲アイランドCITY自治会では住民にアンケートを取り、人工河川を埋め立てた後の利用方法について意見やアイデアを募集しました。
- 花園の意見が多かったことからプロジェクトチームを立ち上げ、たまたま、神戸国際大学の白砂伸夫教授が六甲アイランドガーデン構想を発表されていましたので、神戸市・国際大学・自治会の三者が協議をして花壇をバラ園にすることに決まりました。

### 人工河川の支流をバラ園に

人工河川支流を花壇に変更

### バラ園造り

☆2011年5月

- 神戸可徳大学白砂教授がバラ園の設計
- 神戸市がバラ園の造成
- 自治会がバラ園の維持管理運営
- 神戸可徳大学白砂ゼミ生徒と自治会がバラ祭り等のイベントを開催
- 三者で人工河川をローズガーデンに変えて、魅力がなまちを作る活動がはじまりました。

### バラ園造り

☆2011年7月

- プロジェクトチームでの検討

①バラ園の維持管理作業は難しいのではないか。
全国でバラ園造りで豊富な経験と知識がある神戸可徳大学白砂伸夫教授に相談し、無農薬での維持管理が可能で、病気や害虫に強く手がかからず、一年中花が咲くローズガーデンの設計をお願いしました。
②バラにはトゲがあり危険だということを教えるために、植栽の手伝いで小学生にお願いし、手作りの看板を設置しました。
③水撒きは、自動散水装置に頼らず、手作業で行うこととし、神戸市には各花壇に散水栓の設置と1～3の収納場所（ドラ）をお願いしました。

### 散水栓・注意看板の設置

散水栓とドラの収納場所

注意看板の設置

### バラ園の植栽及び運営

☆2011年12月

- 六甲アイランド小学校、向洋小学校両校の1・2年生及び神戸国際大学白砂ゼミ生徒、自治会役員等の約350名でバラ園の植栽を実施しました。

### バラ園の植栽写真

### バラ園の植栽及び運営

☆2011年12月

- 神戸市と自治会の間で「リバーモール支流跡地における花壇の維持管理に関する協定」を締結しました。

### バラ園の特徴

- バラと宿根草を混植
- 大きさ：面積240㎡　幅3m　長さ80m
- バラの種類：41種類、200本
- 場所：ビル街の中心地、中央に石畳の通路があり、バラを身近に感じられる
- 安心：無農薬栽培

### バラ園の特徴

### バラ園の植栽及び運営

☆2012年1月

- 維持管理運営体制は、プロジェクトメンバーを主体にしたボランティアグループを作り、自治会の内部組織としました。
- ボランティアの募集については自治会加入団体以外の六甲アイランドCITY内全住民からも募集し、現在43名で活動しています。

### ローズガーデンファミリーの概要

- 目的 ： RICローズガーデンの維持管理
- 組織 ： 自治会内の無償のボランティアグループ
  全員ボランティア保険に加入
- メンバー： 六甲アイランドCITY内の住民
- 構 成 ： 女性 25名 男性18名 合計43名
  (2015年1月現在)

### ローズガーデンファミリーの概要

- 年齢構成： 65歳以上 2/3
- ミーティング：毎月1回開催
  作業内容や当番表の確認等
- メンバーの募集：バラ祭り等でローズティーをサービスしながら加入を勧誘
  毎年2～3名加入、退会者も毎年2～3名

### 活動で努力している点

- グループ名を「ローズガーデンファミリー」と命名、目立つオレンジのジャンパーを着て作業、家族のような温かい雰囲気を大事にしています。
- メンバーはバラ園の維持管理の経験がないことから講習会を毎年夏冬の2回行い、知識や経験の蓄積を図っています。
- 他のバラ園を訪問して、バラ園管理者との意見交換会を通して、自分たちのバラ園との違いや、維持管理についてのノウハウを学んでいます。

## 活動で努力している点

- 無農薬ということもあり、アブラムシ等も多数発生しますが、早めに手作業で駆除しています。
- 花がら摘みを励行し、落ちた花・葉などもこまめに拾ってガーデンを清潔に保ち、バラの病気予防とガーデンの美観を保つことを心がけています。
- 作業を見て通る住民からの温かい声にファミリーたちはいつも励まされています。

## バラ園維持管理作業

☆日常の維持管理作業
水やり、除草、落葉拾い、害虫駆除、病気対策、バラの剪定、清掃等
☆10月～5月は毎週水曜日
☆6月・11月は毎週水曜日・土曜日
☆7月・9月は毎週月曜日・水曜日・金曜日
☆8月は毎週月曜日・水曜日・金曜日・土曜日に作業

## バラ園維持管理作業

☆全員参加での作業
9月：四季咲のバラの剪定及び追肥作業
（秋に花を咲かせる）
12月～1月：つるバラの剪定・誘引及び追肥作業
（春に花を咲かせる）

## 夏・冬バラ講習会

## バラ祭りの開催

<ワインと音楽のパレット>

住民と学生の共同開催
開催期間中はローズテ/無料サービス

- 第1回バラ祭り 2012年5月19日（土）～6月3日（日）
  オープニング（ワイン無料サービス）
  ワインたる割、フルート演奏
  来賓者：東灘区長 他
- 第2回バラ祭り 2013年5月18（土）～6月2日（日）
  オープニング（ワイン無料サービス）
  バトントワリング（神戸国際大学生）
  神戸市立六甲アイランド高校吹奏楽部
  来賓者：東灘区長 他

## バラ祭りの開催

- 第3回バラ祭り 2014年5月10日（土）～5月25日（日）
  オープニング（ワイン無料サービス）
  シャンソン、バトントワリング（神戸国際大学生）
  神戸市立六甲アイランド高校吹奏楽部
  来賓者：神戸市長 他
- 第4回バラ祭り 2015年5月16日（土）～5月31日（日）
  オープニング（ワイン無料サービス）
  シャンソン、神戸市立六甲アイランド高校吹奏楽部他

※バラプレート作成1,500枚、チラシ作成18,000枚、費用150万円

## 六甲アイランドバラ祭

## バラ園見学バス旅行

見学場所
①灘電中央公園～灘電東昭村公園
②灘崎バラ園～加西フラワーセンタ
③福山バラ公園
※管理員等との意見交換会を開催

## 活動の成果

- 人工の川をローズガーデンに変えることには、神戸市との間で決定してからも住民の中に反対する声が残り、いつでも川に戻せる形でローズガーデンにすることで、ようやく決着がつきました。
- 現在では多くの住民から「川で残すよりも、ローズガーデンにして良かった」との声が寄せられるようになり、そのことが、何よりの成果だったと思っています。

## 活動の成果

- バラ祭りで行ったアンケート調査では、ローズガーデンは、まちづくりに役立つとの意見が大多数でした。私たちがバラの維持管理作業、バラの講習会、バラ祭り、バラ祭りの反省会、バス旅行等を通じて楽しく活動を広げていくことでまちの活性化につながればと思っています。

## RICローズガーデンファミリーの今後の展開

<六甲アイランドCITY内にバラ園を広げていく>

- バラ園の維持管理できる人材を増やします。
  （ローズガーデンファミリーのメンバーを増やす）
- 六甲アイランド内にあるマンションの庭にバラ園を拡大していきます。

## RICローズガーデンファミリーの今後の展開

<六甲アイランドCITY内にバラ園を広げていく>

- ファミリーのメンバーがリーダーとなってマンションの庭をバラ園に変えていきます。
- 毎年開催しているバラ祭りも見直し、島内の住民だけでなく島外の多数の方にもバラを楽しんでいただけるようなイベントにして、六甲アイランドの素晴らしさをアピールしていきたいと思っています。

## バラと宿根草を混植したバラ園

## ビル街の中心にあるバラ園

## ご静聴ありがとうございました。

事例発表⑨

# 「とよなか四季彩園
# ～市街地ビオトープの誕生～」

ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ
柿本 修一

豊島北ビオトープクラブは、豊中市にある「ふれあい緑地」内で、ビオトープ「とよなか四季彩園」と、隣接した公園の「服部ビオパーク」を管理しています。自然環境をビオトープとして形成し、維持管理・活用することで、地域の環境保全に寄与することを目的としています。

私たちは、理念を憲章という形で表しています。猪名川流域や北摂地域の自然環境と、豊中で古くから維持されてきた農環境をモデルにビオトープを作って、自然の再生を試みます。それから、「昭和 30 年代」をキーワードにしていて、私たちのビオトープには昭和 30 年代にはいなかった外来の生き物やペットは持ち込みません。自然に入ってきたときにはできるだけ除きますと言っていますが、いくらでも入ってきています。それから、農薬や化学肥料等は極力使いません。

## 1. とよなか四季彩園

とよなか四季彩園は広さ約 1.1ha で、昨年 4 月に竣工しました。里山と田んぼ、地下水掛け流しのせせらぎや池で構成しています。せせらぎは 2 本造っていて、一方は子供たちが自由に遊べるものにし、もう一方は自然環境保全ということでいろいろな生き物を住まわせているほか、ホタルの育成もしています。多目的の広場や自然学習センターなども設けています。

里山にはポンプ小屋があり、地下水をくみ上げています。鉄分やマンガンがとても多く、その処理に非常に苦労しています。そこから流下させて、田んぼや池に水を入れています。

田んぼは 4 面造りました。田んぼをやりたいという希望者がとても多かったのですが、1 面だけは湿生植物園として残すということで、雑草が生えるような形にしています。

それから、ホタルが住む沢を目指すということで、近隣の猪名川からヘイケボタルとゲンジボタルの幼虫を持って来て放流しています。水質や周りの明るさの問題もあって、ちゃんと育ってくれているか非常に心配ですが、今年の春を楽しみにしてください。

自然学習センターでは、いろいろな講座やイベントを開催できます。申し込めばどなたでも環境に関することで使っていただけます。

生物のサンクチュアリとして北池、自然体験の場として南池がありますが、なかなかうまく管理できません。池にはショウジョウトンボやギンヤンマ、アオモンイトトンボなどが、放っておいても勝手にやって来ます。貴重なものとして、チョウトンボやキイトトンボなどもいます。トンボ類は放っておいてもやって来るのですが、大体の水生昆虫も含めて、種類としてはかなり偏っています。バッタが住む北の丘も、在来種のススキなどがなかなか育たず、外来種ばかり強くなっています。広場は、一般の方でもピクニックで使ってもらおうという形になっていますが、今はほとんど芝です。できればいろいろな草が生えてきてほしいのですが、今のところはあまり生えていません。

それから、田んぼでイネを作ると、スズメがたくさんやって来ます。初めはスズメがついばめる形にしていたのですが、ほとんど食べられそうな状況になってきたので、仕方なくネットを張りました。池の近所にいるカルガモも、初めは水草を食べていましたが、ホタルの餌になるようなカワ

ニナや貝類を食べるということが分かり、今ちょっと困った存在になっています。また、ここはビオトープですので、コイなども、あまりに影響の大きいものや外来種は基本的に入れないようにしていますが、勝手に持ってくる人がいます。そのたびに駆除しなければならず、困っています。

モクズガニも現れます。猪名川水系とはコンクリートの三面張り水路でしかつながっておらず、グレーチングの蓋もあります。そこをどうかいくぐってきたかは知りませんが、やって来ます。もしかしたらどなたかが捨てたのかもしれません。

水質問題もいろいろ大変です。地下水を上げてそのまま流せばいいのですが、鉄などの金属類の除去のために薬品や塩素等の注入をしており、そのバランスが崩れると水質が変化してゲンジボタルやガガンボの幼虫が死んだり、鉄バクテリアが増えたりします。

## 2. 服部ビオパーク

服部ビオパークは、基本的に遊具広場なのですが、昔ながらの草が生えるビオトープや、昔の園芸植物を入れた庭などもあります。この中では、子供さんや家族連れを対象にいろいろなフェスタ等も開催しています。

服部ビオパークが先行してできていたので、われわれは市民との交流や研究会・講演会などを既にやっていました。今年度からとよなか四季彩園ができましたので、両方で活動するようになり、なかなか大変です。土の中の生き物を調べたり、生き物を顕微鏡で見たり、米作りを体験したりしています。昔ながらの工作や干し柿を作るなど、遊び的な催しにはたくさんの市民の方が来てくれるのですが、ちょっと堅いビオトープの講座や生態系保全に関することになると、あまり人はやって来ません。

今困っているのは、実際に動いてくれる会員がなかなか集まらないことです。指示待ちの方や、何かあったら手伝うという方は来ていただけるのですが、自分たちで何か計画して動こうという方はなかなか来られないので、ぜひ皆さんのご意見を頂きたいと思います。

（Q）　ビオトープを維持していく上で、データの蓄積はずっとしているのですか。

（A）　服部ビオパークでは、当初 5 年ほどは植生モニタリングの定点調査をしていました。植生遷移など面白い結果が出ているのですが、ここ数年は忙しくてできていません。

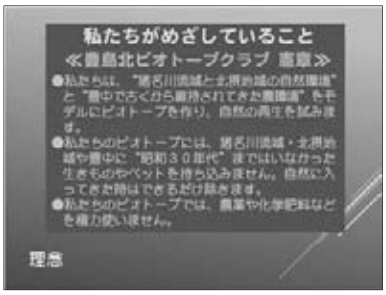
（加我）　多分、とよなか四季彩園の方も、造りたてのときはなかなか自然がなじまない状況だと思います。モニタリングを蓄積していただいて、どのように変化するのかをまたご報告いただければと思います。楽しみにしています。

来年どんなふうに変化しそうだとか、今感じられていることはありますか。

（A）　いろいろ試したいとは思っていますが、人手がなくてモニタリングまでなかなか手が回りません。草刈りにしても、きめ細かくやろうとすると時間もかかってしまうという問題があります。

（加我）　マンパワーと自然との付き合い方を考えないといけないということですね。

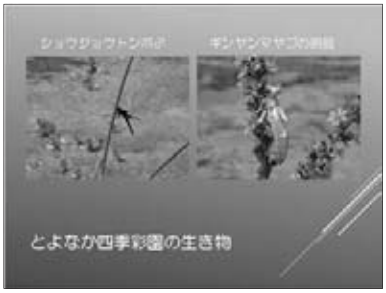
## ● 発表資料



とよなか四季彩園

とよなか四季彩園

とよなか四季彩園


とよなか四季彩園の生き物

とよなか四季彩園の生き物

とよなか四季彩園の生き物
管理も結構たいへん

とよなか四季彩園の生き物
勝手に放さないで

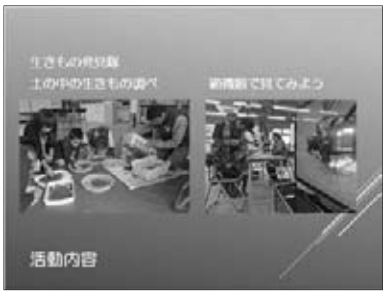
とよなか四季彩園
アクシデントもたびたび

服部ビオパーク

服部ビオパーク
0.8ha
服部ビオパーク

服部ビオパーク

活動内容


活動内容

活動内容

活動内容

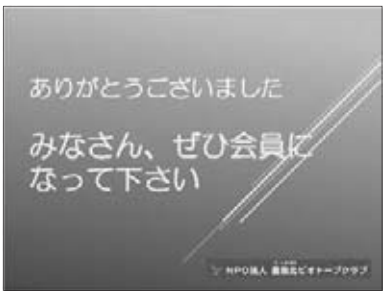
活動内容

活動内容

活動内容

地域との連携

組織運営における強み


ありがとうございました
みなさん、ぜひ会員になって下さい

事例発表⑩

# 「里山に自生する山野草の保全と管理」

里山の山野草を守る会
石垣 洋治

今日は、園芸種の花、観察して美しい花を取り扱っている団体が多かったのですが、私どもは少し性格を異にしていて、野生の花を扱っています。里山の山野草を守る会は 2008 年 3 月に発足し、間もなく 8 年目を迎えます。会員は植物好きなシニア層の男女 58 名です。

私どもが活動しているフィールドの中で、私が一番好きな花はユウスゲです。7 月の夕方 4 時ぐらいにつぼみが開いて、未明の 1〜2 時ぐらいまで咲く一日花です。山野草は、かつては人と自然の関わりによって守られてきました。しかし、われわれの地区は準限界集落化が進んでいます。また、奈良県が 7〜8 年前、全国の都道府県で最も遅くレッドデータブックを作ったのですが、それによると、多くの種がこのまま放っておくと消滅してしまうとされています。われわれは、素人集団ではありますが、今から手を加えて保全し、維持管理していくことにより、生育を持続させていきたいという目的を持っています。

## 1. 里山を定点観測

里山とは、人がいない大自然と都市の中間に位置する空間であり、そこに人が何らかの形で介在してきたということが大事なポイントだと思います。私どもが活動している桜井市三谷地区は、ボタンで有名な長谷寺からさらに十数キロ奥まったところにあります。海抜 500m 前後で、大和川の源流にも当たります。公共交通機関もなく、足の面では苦労しますが、これほど植生の豊かな里山は、そうざらにはないと思っています。

活動としては、12 のフィールド、計約 1ha を四つの班に分けて、定点観測をしています。

私も火曜班として火曜日を担当していて、決められた場所で一年中、定点観測を続けています。単なる花の鑑賞ではなく、年間を通しての経時変化、一年を通じての変化を克明にフォローしています。暑さや寒さ、強風や雪で活動を中止せざるを得なくなるといった自然との闘いであることに加え、ここ数年はイノシシ被害が出ているので、獣害対策のために心ある団体から助成金を頂くなどして電気柵を設置したり、笹や草の除伐採をしたりと、肉体労働が避けられない地区です。

植物というのは、それぞれが生活史を持っています。ですから、植物個々の成長とともに、種の保存および繁殖のための営みを追究していかなければなりません。

例えば、ユリ科のショウジョウバカマは、普通は芽が出てつぼみになり、花が開いて身を結んで枯れていくのですが、場所によっては 3 年目の葉の先に 5 月頃小さな不定芽ができ、これが土に到達すると、そこから根を張って新しい株になるのです。それで 3 年目の葉は枯れてしまいます。つまり、ショウジョウバカマには、通常の植物のように花が咲いて実がなるものと、不定芽で成長するものという二段構えの成長の仕方があるのです。われわれのフィールドにも、たくさんのショウジョウバカマがありますが、めったに見ることがないので、守る会では、見つけたら杭（くい）を立てるなどして皆さんに観察していただくようにしています。自然のたくましい生き様を見る思いがします。

具体的な観察対象は、奈良県のレッドデータブックに準拠していて、絶滅寸前種と絶滅危惧種、

希少種が該当します。班によって森林性植物が多いフィールドもあれば、草原性植物が多いフィールドもあり、12 のフィールドが全部一緒ではないので、それぞれの班が自主性を持って、289 種に及ぶ植生の中から、共通管理対象の 26 種のほかに、30 種程度の注目種を選んで観察項目に加え、観察しています。例えば、スズランは本州の南限に当たるほか、ヤマユリ、トリガタハンショウズルなども毎年咲き誇ってくれます。

## 2. 活動の実態

活動内容としては、全体会という形で四つの班のメンバーが月 1 回集まり、情報の交換や共有化をします。自然のものを採ってきて、当番が作ってみんなでの会食も楽しみの一つです。それから、班活動は、4 班に分かれて月 1〜2 回保全活動と定点観測をし、生活史の記録を継続してデータベースを作っています。それから、幹事会を年 3 回開催し、計画や会の運営、基本政策の検討等を行っています。

また、教育実習ということで、NPO 法人大阪シニア自然大学校の講座生を年間 90 人ぐらい分散して受け入れ、いろいろな指導をしています。研修会も対外的に出ていったり講師に来ていただいたりしています。今日のように、部外者の方々に対して自然活動の喜びを伝えるようなイベントへの参加も行っています。

急なのり面にはしごを掛けて、草刈りをするような大変な作業がある一方、刈ってきた笹や草などを燃やし、中にサツマイモを入れて焼き芋をしたりすることもあります。4 月には、世界的に展開されているアースデーの行事に出展して、われわれの作品や食べられる野草などを販売させていただいています。このように、私どもの活動を 1 人でも多くの皆さんに知っていただくよう努力しています。

● 発表資料

1

# サークル紹介

2015年2月15日
里山の山野草を守る会
代表者:石垣　洋治

2

## 里山というフィールド(土台)があってこその山野草である。(その1)

目的:かつては人と自然のかかわりによって守られてきた山野草ですが、地区の準限界集落化とともに、奈良県レッドデータブックにうたわれた多くがこのままでは消滅してしまうので、今から手を加え保全し、維持管理をしていくことにより、生育を持続させることにあります。

発足:2008年3月　まもなく8年目を迎えます。
会員:植物好きのシニア層の男女58名の
　　ボランティアで構成されます。

3

## 里山というフィールド(土台)があってこその山野草である。(その2)

里山:大自然(人がいないところ)と都市との中間に位置する空間
所在:奈良県桜井市三谷地区　海抜500m　大和川の源流
　　桜井駅から15km離れた中山間地で、公共交通機関なし
植生:こんな植生の豊かな里山はそんなにありません。
活動:12のフィールド(約1ヘクタール)を4班に分けて、定点観測。
単なる美しい花の鑑賞ではなく、年間を通しての経時変化を克明にフォロウする地道な活動です。
暑い、寒い、風や雪といった天候の中での自然との闘いや、イノシシ被害対策のための電気柵設置や、笹や草の除伐採など、肉体労働もさけられません。

4

## 植物の生活史をフォロウする：個体の成長と種の保存および繁殖のための営みを知ること

出芽→つぼみ→開花→結実→消滅
（青葉で残るものもある）

ショウジョウバカマ（ユリ科）には、養分を供給してきた3年目の葉の先に不定芽ができることがあり、それが新しい株として世代交代し、3年葉は枯れていく。

5

## 奈良県レッドデータブックに準拠して

- 絶滅寸前種：2種
- 絶滅危惧種：8種
- 希少種：16種
- 自主的な注目種：289種にも及ぶ植生の中から、班活動ごとに30種程度を選択して定点観察する。

（具体的な代表花についてはパネルをごらんください。）

スズラン(本州の南限)　ヤマユリ　トリガタハンショウズル

森林性植物や草原性植物があり、フィールドによって異なっています。

6

## 活動の実態

| | |
|---|---|
| ・全体会(月1回) | 情報交換と共有化、会食 |
| ・班活動(4班　月1～2回) | 保全活動と定点観測・生活史の記録 |
| ・幹事会(年3回) | 計画や会の運営基本政策検討 |
| ・教育実習 | シニア自然大学校から60～80名 |
| ・研修会 | 年1～2回 |
| ・イベント参加 | 部外者へのインプリテーション(自然活動の喜びを伝える) |

# 講　評

加我 宏之
（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）

10 団体のお話を聞かせていただいて、私が学んだこと、気付かされたことを中心にお話ししたいと思います。

まず、最後に発表していただいた「里山の山野草を守る会」の報告の冒頭にありましたが、大自然と都市との中間にある里山・里地は、人が自然と関わって育まれてきた自然です。10 事例に共通していると思いますが、皆さま方が関わることによって維持されてきた自然がこんなにたくさんあるのだということを、あらためて勉強させていただきました。

今、その自然が変わりつつあります。保全活動によってどのように変わったのか、それを定点観測するというお話を頂きましたが、データを蓄積していく、モニタリングをしていくことの重要性をあらためて教えていただきました。「豊島北ビオトープクラブ」は、なかなか今はマンパワーが少なくて、ということでしたが、やはりモニタリングしてデータを蓄積し、自然の変化に合わせて活動していくことの重要性について話がありました。「みどり大阪・屋敷林を守る会」からも、将来の植生像に合わせて間伐をするべきかどうかという話がありました。放っておいたら近づくこともできない屋敷林になるところを、健全な自然にするためにデータを見ながら活動していただいています。子供たちの代に伝えていく取り組みをしていただいているのが、非常に力強いと思いました。

大阪大学の皆さんからは、楽しみながら、工夫しながらごみ拾いをして、ごみのデータを集め、データを通してまちを知るという取り組みを教えていただきました。ごみ拾いをやりっ放しというところが多い中でデータを蓄積する、さすがに大学生だなと思いました。当然のことかもしれませんが、活動を振り返って反省することで、また次のスキルアップもありますし、新たなグループの方々と連携することで、足りないところを補っていくことが重要であることを教えていただきました。

関連して出てきたのが、産官学民の連携です。行政の「官」、大学の「学」も重要視されていることがよく分かりましたが、皆さんの「民」と、これからは企業の方々の「産」との連携が重要になってきているということをあらためて認識させていただきました。「NPO 法人環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク」は、納豆をはじめ、地域のブランド産業を創出するということで、竹を媒介に産業の方々との結び付きを教えていただいたのが非常によかったと思います。

ここで強調されていたのはデザインの力ということです。デザインは、かっこよくあることも一つ重要だとは思いますが、デザインの根源は課題解決です。かっこよさ、おしゃれさでデザインするのではなく、最初の「Co.to.hana」の方から、私たちは課題解決のためにデザインを使っているというお話から、本来の課題解決するためのデザイン力の素晴らしさということを教えていただきました。

まちの中には、隙間がいっぱいあります。空き地がいっぱい転がっています。もう一つ注目され

ているのは、食育という言葉もよく使われますが、農の仕組みが注目されています。住之江の空き地でおいしいものを採るという取り組みを、若い方々が中心となってされていることに、力強さを感じました。今日は大学生から高齢者まで、世代を越えて協力できるということの意味を、あらためて認識させていただきました。

行政が作ってきた駅前広場は、今、とても寂しい状況になっています。公園もなかなか使われていません。まちは本来、歩いて楽しむところです。そういった中で「高槻景観園芸クラブ」の方々は、放ったらかしになっている公共空間を歩いて楽しんでもらおうということで、駅前広場から始まって、まちなかのいろいろな空いたところを見つけてお花で埋めていただいています。

私の地元、堺も負けていません。中区の深井駅を中心に活動していただいています。六甲アイランドではローズガーデンができています。私はあそこに水が流れているときにはよく行かせてもらっていたのですが、今はローズガーデンに変わっているということを初めて知りました。ぜひとも 5 月にはお花を愛でたいと思います。皆さんの発表の中でもたくさん出てきたと思いますが、お花を囲んでみんなが集まって会食をしたり、飲食を楽しんだりすることも非常に楽しいことと思います。

もともと日本人は花見が好きです。群れとなった桜がそこにあり、多数の人が集まって、お酒を飲んだり食べたりすることで花見が成立するといわれています。採れたものを楽しんだり、その場所で長居できるようにお酒を入れたりしながらだと、さらに次の活動の展開が見えてくるのではないでしょうか。交流や会話が楽しめるということを実際に見せていただいて、本当によかったと思っています。

全ての事例に共通すると思うのですが、活動を子供たちに伝えていくということが重要になっています。私も息子が 1 人いますが、子供がイベントに行くと言ったら、私もついて行かざるを得ません。そうすると、子供のみならず、若いお母様方、お父様方にも広がっていきます。大阪大学の方々もそうでしたが、皆さんの活動を次の子供たちにも伝えていくことに、いろいろな局面で取り組んでいただければと思います。

私もいろいろなところで「花とみどりのまちづくりリーダー養成講座」に寄せていただきましたが、なかなか修了生の方々の次の展開が見えてこないところがあります。しかし、加古川の「まちづくりリーダー養成講座 OB 会」の皆さんは、毎年修了生の方々を入れて、大きく活動が展開しています。その中で、インタープリターの重要性ということをおっしゃっていました。

「里山の山野草を守る会」の方々からも出ましたが、私もこんな仕事をしていますので、自然を見る目というのはそれなりにできているとは思いますが、教えてもらわないとなかなか自然は見えない、気付かないことが多くあります。また、そのまちの歴史などを知ることによって、よりそこの自然に対する興味が湧くことにもなりますし、まちをもっと良くしたいという活動の原点にもなると思います。皆さんも広報誌などによる情報発信に加えて、インタープリターとして地域や活動場所で今後ますますご活躍いただき、子供たちの世代に本物の自然の見方を伝えていただければと思います。

私も微力ながら皆さんの取り組みを他の場所で宣伝していきたいと思いますので、問い合わせがいくことがありましたら、快く引き受けていただきたいと思います。これから他のグループの方々との連携をもっと深めて頂いて、皆さんの活動が充実し、自然豊かなまちがもっと広がることを祈念しまして、本日の講評にさせていただきます。

# パネル展示

## 第３回みどりの交流広場

ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ
高槻景観園芸クラブ
中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」
みどり大阪・屋敷林を守る会
まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会
ＮＰＯ法人 環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク
大阪大学環境サークルＧＥＣＳ
六甲アイランドＣＩＴＹ自治会ＲＩＣローズガーデンファミリー
ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ
里山の山野草を守る会
ＮＰＯ法人 自然と緑
ＮＰＯ法人 木育フォーラム
ＮＰＯ法人 神於山保全くらぶ
ＮＰＯ法人 島本森のクラブ
街区公園お調べプロジェクト
大阪ガス株式会社 リビング事業部 計画部
ＮＰＯ法人 ノート
新関西国際空港株式会社
ボランティア団体 癒しの園芸の会
ＮＰＯ法人 とどろみの森クラブ

# 《 パネル展示 》

## ①ＮＰＯ法人 Ｃｏ．ｔｏ．ｈａｎａ

### 【北加賀屋みんなのうえんの活動】

デザインの持つ「人に感動を与える力」「社会にムーブメントを起こす力」「人を幸せにする力」で、社会や地域の課題解決を目指し、建築、グラフィック、WEB、まちづくりなどの分野で活動しています。代表的な活動として、地域の遊休地を住民の農を通した交流の場として活用した地域活性化事業「北加賀屋みんなのうえん」を運営しています。農園では、野菜づくりやモノづくりのプロセスを通して、多世代の交流を生み、地域の新たな魅力を創出することを目指しています。

## ②高槻景観園芸クラブ

### 【私たちのまちは私たちで】

“花と緑のまちづくり”を通じて仲間と喜び合えるまち、心なごむまち、元気が出るまち、生きる勇気が湧いてくるまち、思わず歩きたくなるまち、そんな夢を語り続けて講座を開き、“緑の効用”を学び、仲間と出会い10年が経ちました。JR 高槻駅の緑地ガーデンと、冬の風物詩となったイルミネーション！、そして城跡公園周辺の高校生との取り組みと“講座”の実習ガーデンは年中クラブ員がメンテしています。花を育てる人、観る人お互いに“花”の力は大きいと感じ合います。

## ③中区まちづくり咲（サ）ークル「花輪（かりん）」

### 【花でつながる地域の輪】

堺市中区では「中区まちづくりビジョン」を作成し、区民と行政の協働により魅力あるまちづくりに取組んでいますが、「花輪」は重点プランの一つであるまちの魅力の再発見と創造を実践するために平成 22 年に結成されたグループです。その活動は、春・秋に種から花苗を育て、中区内の各地域、学校、駅等に配布することで地域を飾ることや、月 2 回深井駅のフラワーポットの清掃、植替えを通して駅利用者に楽しんでもらうことです。他にも、育てた花苗を中区ウオーキンググループとコラボして、コース途中の小学校でウオーキングメンバー、小学生が一緒になって花植えを行うことで世代間交流を目指すイベントも行っています。

## ④みどり大阪・屋敷林を守る会

### 【川中邸・屋敷林の歴史的背景と現状】

東大阪市今米の「川中邸・屋敷林」は現在河内の庄屋屋敷跡として原型をとどめる唯一の屋敷林です。また「川中邸・屋敷林」は大和川付替え工事の主宰者である「中甚兵衛」の生誕の地として歴史に彩られた屋敷林でもあります。この歴史ある「川中邸・屋敷林」を次の世代に「みどりの歴史遺産」として引き継ぐことを目的に「みどり大阪・屋敷林を守る会」は活動を行っています。活動作業の主旨は、新しく緑地を創造するのではなく、現況を出来るだけ変えず維持することを目指しております。

## ⑤まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会

### 【まちづくりリーダー養成講座ＯＢ会の 12 年間の歩み】

同団体は、加古川市が平成 14 年から開催している「花とみどりのまちづくりリーダー養成講座」生が受講中に作った花壇や庭園を、講座修了後も自主的に維持管理しています。単なる植物の管理ではなく、環境と景観に配慮した活動を行っています。また、地元の小学校、高校、他の団体からの依頼を受けて、腐葉土づくり、植栽、公園の清掃などの指導や手助けを行い、地域と広く結びついています。モットーは、植物を育てていく中での人と人との結びつき、この活動で得た知縁を何より大切に生涯現役を目指すことです。

## ⑥ＮＰＯ法人 環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク

### 【デザインの視点から「みどり」に関わっている活動の紹介】

本 NPO には、環境デザインやまちづくり・環境づくりに関する教育的役割を担うエキスパートと実践活動を通じての能力開発を志す若手環境デザイナーや学生が所属し、「みどり」をはじめとする地域環境を対象にデザインの視点から活動に取り組んでいます。主な活動として、「緑化啓発パンフレット『みどりって？』編集、『ザ・夕涼み～今年も野外映画やります～』の運営、『だいとうの杜ネットワークNEWS』編集・制作、地域資源を活用した商品開発『竹姫納豆』などがあります。

## ⑦大阪大学環境サークルＧＥＣＳ

**【箕面川清掃イベント、McK 班、壁面緑化班】**

GECS の 1 回生は、GECS に入ったばかりの初夏に、新入生全員でイベントの企画、運営をします。1 回生イベントでは、川清掃を中心に様々なレクリエーションを盛り込んだ楽しい清掃イベントの企画をたてます。また今年は大阪トヨタさんと AQUA SOCIAL FES!!を開催しました。McK 班は学内の環境サークルである GECS の班の一つとして「まちをきれいにする」を目的にし、学内ゴミ箱のペットボトルの分別推進企画、学内庭園内のたばこポイ捨て削減企画、大学最寄り駅周辺地域のごみ拾い企画の 3 つを行っています。壁面緑化班はたくさんの方に壁面緑化を知ってもらうべく大学内外で壁面緑化を行っています。

## ⑧六甲アイランド CITY 自治会 RIC ローズガーデンファミリー

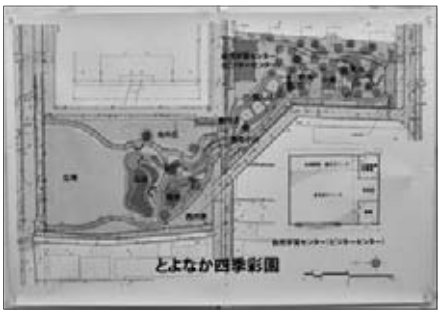
**【ピンチをチャンスに変えて花のまちづくり】**

活動が始まったのは、六甲アイランド CITY の中心を流れる人工河川の支流を埋めて、花壇にすると決定したときでした。バラ園にすることを希望したプロジェクトメンバーを中心に、アイランド内の全住民からバラ園の維持管理を行うボランティアを募集した結果、現在 43 名で活動しています。当番表を作成して、4 名態勢で日常作業を行うなかでメンバーも経験を積み、剪定など手探りだった作業も洗練されてきました。また、楽しみと勉強を兼ねて他のバラ園を見学するなど、作業以外の活動を通じてグループにはファミリーの名にふさわしい和気あいあいとした雰囲気が育っています。春にバラ祭りを開催し、その期間中は見学者にローズティのサービスやパンフレットの配布を行って、ボランティアの増員を図っています。

## ⑨ＮＰＯ法人 豊島北ビオトープクラブ

### 【とよなか四季彩園～市街地ビオトープの誕生～】

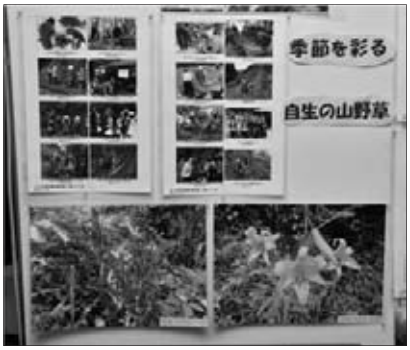
NPO 法人 豊島北ビオトープクラブでは「とよなか四季彩園」と「服部ビオパーク」の 2 公園の管理・運営を、豊中市との協働事業として行っています。両公園は豊中市南部にあり、伊丹空港騒音対策移転跡地に設けられた公園で、「とよなか四季彩園」は小川と池、田んぼや里山があって、市街地にありながら多くの在来生物が棲み、学習センターも併設するビオトープとして昨年オープンしました。「服部ビオパーク」は大型遊具、花壇や昔ながらの庭、草地ビオトープを併せ持つ公園として、多くの市民に利用されています。



## ⑩里山の山野草を守る会

### 【山野草の愛らしさと保全する仲間たち】

里山の自然は、人と自然とのかかわりによって守られてきたが、地区の準限界化とともに、放置されるフィールドでの山野草の生息が激減し、生物多様性の維持ができなくなってしまうので、今のうちに手を加えることにより、植生の回復保全、維持に力点を置いた活動を継続している（7 年目）。近鉄桜井駅から 15km はなれた中山間地の三谷地区の 12 のフィールドで、レッドデータブック記載の山野草の定点観測と、年間を通した植生ごとの経時変化（生活史）の観察記録が活動の中心である。



## ⑪ＮＰＯ法人 自然と緑

### 【ＮＰＯ法人 自然と緑の活動紹介】

NPO 法人 自然と緑は環境保全団体として、近畿一円で里山整備活動、水源の森整備活動に汗を流しています。それに加えて、啓発活動として市民講座「自然大学」を主催しています。特に、自然大学では 2014 年に 20 周年を迎え、約 1000 名の受講者が修了し、各分野で活躍しています。20 周年を記念して、2 月 1 日に記念シンポジウムを開催しました。2015 年 4 月開講の第 21 期自然大学はただいま募集中です。

## ⑫ＮＰＯ法人 木育フォーラム

### 【木育活動】

木を切ることは悪いことでしょうか？いいえ違います。今日本では木が切られない、木が使われないことによって森林が荒れています。木育フォーラムは木育の普及促進を目的としている NPO 法人です。出前授業や出張木工教室を開催し、木の良さ、ものづくりの楽しさを発信しています。一昨年より阿倍野ハルカスで子どもたちに木に触れる機会をつくる活動を月に一度行っています。木育を通してより良い活動を次世代に残すことに貢献できればと考えています。

## ⑬ＮＰＯ法人 神於山保全くらぶ

### 【緑の財産を未来につなぐ】

大阪府岸和田市の丘陵地区に浮かぶ独立山塊の神於山標高（296m）で里山保全の取組みを行っています。1999 年から放置竹林の拡大や不法投棄等で荒廃した里山を『緑の財産を未来へつなぐ』と自然再生法による協議会を作り地元の NPO 団体、企業、学校、行政などが参加し活動を行っております。『ササユリが咲き、オオムラサキが舞う森』を目指しボランティアの育成や子供たちの体験活動を積極的に提供して活動しております。

## ⑭ＮＰＯ法人 島本森のクラブ

### 【北摂地区におけるナラ枯れ対策とその余材活用】

・（財）大阪みどりのトラスト協会の里山保全 1 号地として H10 年 2 月活動開始
・H14 年 2 月任意団体「島本森のクラブ」設立、H23 年 10 月 NPO 法人化
・その後活動地を拡大し大阪府島本町内で現在 5 カ所 35ha（天然林、人工林、竹林）
・活動は定例 2 回/月、有志等 H14 年以降の参加実績平均 600 人/年（現会員 40 名）
・主な活動内容
　①ナラ枯れ木の処理と余材活用による天然林の保全
　②林縁部侵入竹除伐・竹林整備による居住区周辺の修景
　③これら林内整備時に発生する余材の有効活用
　　・木竹炭の生産と粉炭化、腐葉土増産による「土壌改良剤」の市民提供
　　・ナラ枯れ材の椙木化による椎茸・ナメコ等「山の幸」の増産
　④林内よりの余材搬出用「軽架線方式」の玉成・他団体普及促進加速

## ⑮街区公園お調べプロジェクト

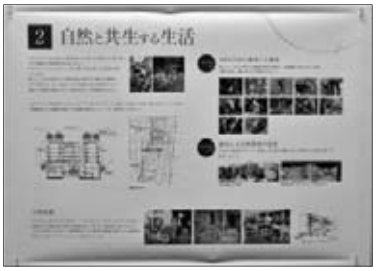
### 【街区公園のアクティビティ調査】

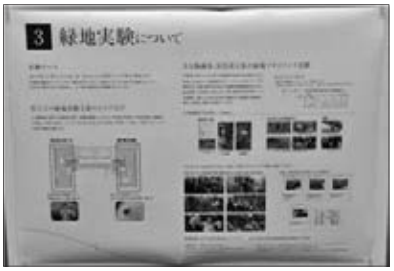
わたしたちは、関西のランドスケープに関わる若手実務者と学生有志による活動で、2009 年から大阪市中央区の街区公園のフィールドワークと調査の分析・考察を行ってきました。活動の目的は、街区公園の実情を知り、同世代のメンバーで意見を交わしあいながら、公園等の計画・設計に活かせるアイデアをストックすることでした。2014 年には、調査結果を実務に活かすことができる資料集成としてまとめあげました。この中には、街区公園の魅力が詰まっています。

## ⑯大阪ガス株式会社 リビング事業部 計画部

### 【都市における自然環境との共生に関する居住実験】

NEXT21 は、近未来の都市型集合住宅のあり方について、環境・エネルギー・暮らしの面から、実証・提案することを目的に、1993 年に建設した「実験集合住宅」です。大阪ガスの社員とその家族が実際に暮らし、時代に一歩先んじたエネルギーシステムや住まいを体験し、検証していく場となっています。2020 年頃の都市型集合住宅を想定し、「環境にやさしい心豊かな暮らし」を追究しており、緑地に関しては、人と自然の関係性の再構築を目指した居住実験を実施しています。



## ⑰ＮＰＯ法人 ノート

### 【摂津峡・芥川わくわく探検隊】

高槻市の山岳地域内にある原地区において、子どもたちに日ごろ体験できない自然体験の場をつくり、自然の恵みや摂理について学ぶ「わくわく探検隊」プログラムを展開。活動を通じて、地域の豊かな自然や歴史文化、地域の人の営みやつながりの中で守られていることを子どもたちに伝えています。また、体験活動を通じ「高槻」のことを学び合い、他世代の人とかかわり合える場をつくることで、街のこと、子どもたちの未来をいっしょに考えていくことを目的としています。

## ⑱新関西国際空港株式会社

### 【大阪国際空港における刈り草の再利用】

大阪国際空港には、着陸帯という滑走路に隣接した緑地があり、この緑地から年間約 900 トンもの刈草が発生しております。この刈草の再利用として、2 つのエコな取り組みを行っております。1 点目は飼料化です。空港の刈草をサイレージ等に転用し、動物のエサとして周辺の牧場等に提供しております。2 点目は肥料化です。空港内や空港周辺の小中学校等の花壇に使用しております。通常は、焼却処分する刈草をこれらの取り組みにより $CO_2$ 発生を抑制しております。

## ⑲ボランティア団体 癒しの園芸の会

### 【園芸福祉活動の展開】

「園芸福祉活動」の普及と実践をしており、大阪府営大泉緑地を拠点にして、下記の活動をしています。

1）癒しの園芸講座の運営。

2）実習花壇「はないずみの庭」の維持管理作業～色々な花を種子から育てて、利用までのサイクルを勉強します～。

3）高齢者／障がい者施設での花壇作りと、利用ノウハウの提供。

4）上記に関する、色々な活動の展開。「東北大震災被害者支援／出前講座／園芸指導など」

## ⑳ＮＰＯ法人 とどろみの森クラブ

### 【里山の緑と自然が地域の人達と共生するまちづくり】

NPO 法人「とどろみの森クラブ」は平成 19 年 2 月に設立され、大阪府箕面市森町に拠点を置いています。この地は、昔からある深山を抱えた里山が残されていて希少な動植物が多く生息する地域です。自然エネルギーから化石燃料の普及により、里山も荒廃が進んでいます。里山の再生と里山の利用を「森林、山村多目的機能発揮事業」（さともり事業）に取り組んでいます。又、地域の人達と自然体験学習として 26 年度は、廃セラミック水耕栽培等を行い地域のみなさんと新しい緑豊かな町づくりを行っています。

# 「第３回みどりの交流広場」開催概要

## １．趣　旨

みどりの風・生き物の道の浸透・推進に伴う植樹運動や、地域での緑化活動、ビオトープづくりといった環境創出や保護、農とライフスタイルとの新しい関わり方、ランドスケープ等の分野において活動している市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進し、共生の輪を広げる。

## ２．主　催　　公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

## ３．後　援　　大阪府、大阪市

## ４．日　時　　平成 27 年 2 月 15 日（日）　12：00～17：30

## ５．場　所

第１部　花博記念ホール（鶴見緑地公園内）
第２部　交流会･･･旧 生き生き地球館　別館　研修室（鶴見緑地公園内）

## ６．次　第

| | | |
|---|---|---|
| 開会あいさつ | | 13：00～13：05 |
| 第１部 | 事例発表 | 13：05～15：50 |
| | 講　評 | 15：50～16：05 |
| 第２部 | 交流会 | 16：45～17：30 |
| パネル展示 | | 12：00～16：35<br>（ポスターセッション 16：05～16：35） |
| 閉　　会 | | 17：30 |

## ７．参加者

約 100 名

第 3 回 みどりの交流広場

平成 27 年 3 月

発行　公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036
大阪市鶴見区緑地公園 2 番 136 号
TEL　06-6915-4513
FAX　06-6915-4524
URL　http://www.expo-cosmos.or.jp